

武田先生と歩こう会

実施日 : 2023年10月6日 記録：西村光弘
天候 : 晴れ
行き先 : 大阪公立大学附属植物園 (大阪府交野市私市) 入園料350円
参加人数 : 15名

日本とは思われない！ メタセコイアの群生とブラジルヤシ



メタセコイア



ブラジルヤシ



ブラジルヤシの実が！



キセルの様なのでナンバンギセル
アザミにもキセルアザミあり！→



フエノハナワラビ

ちなみにナツノハナワラビもあります



絶滅危惧種が約80種
展示されてました
上手く育てて欲しい
と心から思いました



美しい糸の採れるヤママユ
ヤママユガの幼虫の食草がクヌギなのでその下にありました



トチの実が沢山落ちていた
誰が一番見つけたでしょう

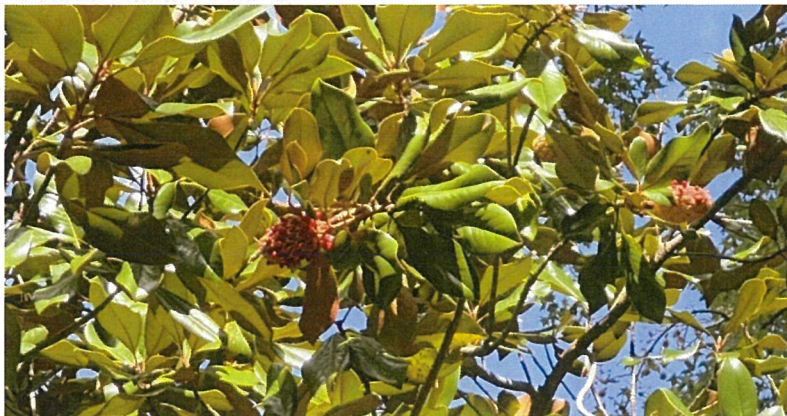
←ミツバアケビがたくさん実を付けていたうえに丁度食べ頃で、美味しく頂いた



←ワルナスビが群生していました
食べれそうな実ですが、有毒です



拡大したタイサンボクの果実
←タイサンボクの実がなっているのを初めて観察



イチヤクソウ
Pyrola japonica Klenze et Alefeld
 ツツジ目 ツツジ科 イチヤクソウ属

山野の林の下に生える常緑の多年草。葉柄のある数枚の葉が根元に集まる。花は白色で、葉の間から高さ20cmくらいの花茎を出し、3-10個の花を下向きにつける。和名は、脚気、切り傷、虫刺されなどの薬用とされることから。

園内開花期：5-6月 採集地：不明
 分布：日本・朝鮮・中国

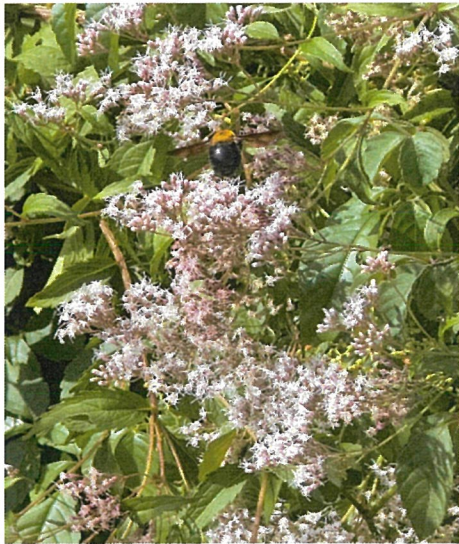
葉を見た時はラン科と勘違いしました、なんとツツジ科！



← 葉縁が縁取りされている！
カクレミノの新種？

・・・ただの虫の被害でした

オオオニバス→



フジバカマ

さて、渡り蝶のアサギマダラが好きな花は？



ヒヨドリバナ



去年、うちの
庭に来たアサ
ギマダラです



←スイフヨウ



←ハリガネムシ



酔芙蓉に酔っている参加者

今年の2月にここを訪れた時は、さすがに花も無く寂しかったが、さわやかな秋晴れのなか、たくさんの草木花虫を観察でき感激！初見のハリガネムシがカマキリを水中に水没させると聞き驚いたが、その生態を調べると自然のサイクルの壮大さを感じた1日でした。

1	フヨウ (写真⑳)	アオイ科	フヨウ属	落葉低木 中国原産 葉(互生 掌状に浅く3~7裂) 花(ピンク・白色の1日花 雌蕊の先端が曲がる)
2	ミツバアケビ (写真㉑)	アケビ科	アケビ属	落葉性つる性木本 秋の味覚 日本と中国に分布 蔓(右巻き) 葉(互生 3出複葉 両面無毛) 花(雌雄同株 濃紫色 花弁無し) 果実(半透明のゼリー状の果肉は甘くて美味しい) 山菜・籠
3	ムクノキ	アサ科	ムクノキ属	落葉高木 葉(互生 鋭い鋸歯 3行脈 質は薄い 紙やすりのようにざらつく) 雌雄同株 果実(黒紫色 甘く美味) 巨木では板根に
4	チョウセンマキ	イヌガヤ科	イヌガヤ属	常緑低木 マキに似るがイヌガヤの栽培品種 園芸種 葉(イヌマキ・ラカンマキに似る 螺旋状に発生) 開花・結実が難しい
5	パンバスクラブ(シロガネヨシ)	イネ科	シロガネヨシ属	多年草 草丈1~3m 南米原産 日本には明治時代に渡来 寒さにやや弱い 葉(細長く密生 緑が鋭い) 花穂(雌雄異株 雄株は細長い 雌株は幅広く綿毛を持つ)
6	カクレミノ	ウコギ科	カクレミノ属	常緑小高木 暖地の沿岸地に生育 日陰に強い 葉(互生 成長に伴って変わるのが特徴 濃緑色 3本の葉脈が目立つ) 雌雄同株
7	ウド (写真④)	ウコギ科	タラノキ属	多年草 草丈大型で1~2m 山野に自生のほか栽培される 茎(中空) 葉(互生 2回羽状複葉で1m程) 花(散形花序で小さな白い花を多数咲かせる) 日本固有種
8	ウラジロ	ウラジロ科	ウラジロ属	常緑シダ植物 群落を形成 正月飾り 悪霊を払う霊力が宿っていると家康の「兜の前立のウラジロ」は有名
9	コシダ	ウラジロ科	コシダ属	シダ植物 貧栄養の乾燥した土壌を好み群落を形成 葉(全体として2mを超える)
10	キノクニスズカケ	オオバコ科	クガイソウ属	多年草 草丈1m 紀伊半島固有種 絶滅危惧IB類 茎が垂れ下がって伸び葉の付け根ごとに白い穂状の花を咲かせる 葉(互生) 日本固有種
11	ベニシダ	オンダ科	オンダ属	常緑多年生シダ植物 葉(2回羽状複葉 長さ50cm程) 若葉と胞子嚢が赤いことから名
12	オミナエシ	オミナエシ科	オミナエシ属	多年草 草丈60~100cm 秋の七草 日当りの良い葉(対生 羽状分裂) 花(黄色の5弁花 平らな散房状) 生薬
13	カツラ	カツラ科	カツラ属	落葉高木 湿地を好む(カツラの大きな木の下には必ず水脈がある:たじま高原植物園の樹齢1000年以上の和池の大きなカツラ) 葉(対生 ハート形 黄葉して落葉した直後の葉は良い香りを放つ) 雌雄異株
14	ツリガネニンジン	キキョウ科	ツリガネニンジン属	多年草 草丈40~100cm 排水が良く日当りの良い所を好む 群生 全体に有毛 葉(茎葉は輪生 上部は対生) 花(淡紫色 下向きに釣鐘形 雄蕊が突き出す) 山菜・生薬
15	ヒヨドリバナ (写真㉒)	キク科	ヒヨドリバナ属	多年草 草丈1~2m 在来種 葉(対生 まばらに縮れた毛 フジバカマのように3裂しない) 花(フジバカマに似る 筒状の小花の集合)
16	フジバカマ (写真㉓)	キク科	ヒヨドリバナ属	多年草 草丈1~1.5m 中国原産 秋の七草 名は花弁の形が袴の様なので 茎(株立ち) 葉(対生) 花(淡紫紅色を帯びた白色) 生乾きの茎葉は桜餅の葉のような芳香 準絶滅危惧(NT) 漢方・薬草
17	ノアザミ (写真⑨)	キク科	アザミ属	多年草 草丈60~100cm 日当りの良い山野に自生 葉(互生 タンポポに似る 葉縁に鋭い棘) 花(全てが筒状花 紅紫色 総苞が粘る) 山菜・生薬
18	キツネノマゴ	キツネノマゴ科	キツネノマゴ属	1年草 草丈10~40cm やや湿った場所を好む 茎(6稜 下向きの短毛) 葉(節ごとに対生 両面毛あり) 花(唇形 赤紫色) 小さな尻尾の様な花穂をキツネの孫の尻尾に見立てたことからの名? 食用・薬用
19	キクバオウレン	キンポウゲ科	オウレン属	常緑多年草 草丈20cm やや湿った場所に生育 葉(根生葉はやや厚くて光沢あり 茎につく葉は1回3出複葉) 花(花弁・萼ともに白色) 日本固有種 薬用
20	オオバギボウシ	クサスギカズラ科	ギボウシ属	多年草 草丈0.5~1m 東アジア原産 葉(長柄の根生葉) 花(白・紫色 漏斗型) 別名ウルイ(毒草のコバイケイソウ・バイケイソウに似るので注意) 食用・薬用
21	バリバリノキ	クスノキ科	カゴノキ属	落葉高木 暖地の日当たりの良いやや湿気のある山地に自生 葉(20cm程で細長い 革質) 花(雌雄異株 黄緑色の小花) 岡山県には自生の記録なし
22	ヤブニッケイ	クスノキ科	クスノキ属	常緑高木 葉(互対生 革質でゴワゴワ 3本の葉脈 芳香あり) 花(雌雄異株 長柄 淡黄緑色の小花をまだらに付ける)
23	クロモジ	クスノキ科	クロモジ属	落葉低木 葉・樹皮・木部に強い揮発性の芳香 花(雌雄異株 葉と同時に展開 早春の花が少ない時に黄緑色の6花弁の小花を咲かす) 薬用・香料・爪楊枝・精油
24	カゴノキ (写真⑤⑥)	クスノキ科	ハマビワ属	常緑高木 樹皮(鹿の子模様) 葉(互生 革質で光沢あり 裏白い) 雌雄異株 寒さに弱い 適度に湿った場所を好む 耐潮性あり
25	ハマビワ	クスノキ科	ハマビワ属	常緑高木 暖地の海岸近くに生育 葉(互生 厚い皮質 裏面褐色の綿毛が密生) 花(雌雄異株 4弁の黄白色) 果実(黒くビワとは似ていない)
26	マンリョウ	サクラソウ科	ヤブコウジ属	常緑小低木 林内に生育 正月の縁起物 株立ち 葉(互生 緑が波打つ) 花(白色) 果実(赤色)
27	アキノタムラソウ (写真①)	シソ科	アキギリ属	多年草 草丈20~80cm 茎(4角形 腺毛) 葉(対生 変異が多い) 花(10~25cmの花序 青紫色 唇形 秋と付くが7月から開花)

28	クサギ	シソ科	クサギ属	落葉小高木 枝や葉を傷つけると不快な臭気がある 葉(対生) 花(甘い香りの白花) 果実(実の藍色と萼の赤色のコントラストが美しい) 山菜・薬用・染料
29	ハマクサギ	シソ科	ハマクサギ属	落葉小高木 葉を揉むと悪臭がある 海岸または海に近い場所に生育 淡路に多い 葉(対生 質は薄い 無毛)
30	ヤブムラサキ	シソ科	ムラサキシキブ属	落葉低木 暖地にの明るい林内に生育 金を吸収して葉に蓄積する性質があり金鉱脈の指標植物 葉や花に細かな毛が多い 葉(対生 ピロート状) 花・実(紫色)
31	ツクバネウツギ (写真⑤)	スイカズラ科	ツクバネウツギ属	落葉低木 葉(対生 両面に短い毛) 花(5個の萼片 2個の漏斗形の花) 園芸種のアペリアは生垣によく使われる 萼片が2枚なのはコツバネウツギ
32	スイレン (写真⑧⑨⑩)	スイレン科	スイレン属	多年草の水草 世界中に50種ほど多種多様 日本にはヒツジゲサのみが自生 葉(抽水葉・沈水葉) 花(長い花柄で水上に開花) 食用・薬用
33	ゼンマイ	ゼンマイ科	ゼンマイ属	多年生シダ植物 草丈60~100cm 水気の多い所を好む 別名コゴミ 葉(2回羽状複葉 早春に芽生える胞子葉と大きな葉を出す栄養葉) 花(糸状 白緑色)
34	イチヤクソウ (写真③)	ツツジ科	イチヤクソウ属	多年草 菌根植物なので微生物に養われている 葉(長柄の根生葉 厚く艶あり) 花(20cm程の花柄 2~10個下向き的小さな花) 生薬
35	コバノミツバツツジ	ツツジ科	ツツジ属	落葉低木 他の花木に先駆けて開花 山一面を紫色に染めて春の訪れを告げる ミツバツツジに比べて葉が小さいことからの名 葉(3枚で展開裏の網目が目立つ)
36	アオツツラフジ	ツツラフジ科	アオツツラフジ属	落葉つる性木本 葉(互生 形はバラエティー 両面に有毛) 雌雄異株 果実(有毒 種がアンモナイトのよう) 漢方薬・籠
37	チャノキ (写真⑫)	ツバキ科	ツバキ属	常緑低木 葉(互生 薄い皮質 やや艶あり) 花(白い5弁花) 地図記号は実を半分にした状態を圖案化したもの
38	ヤブミョウガ (写真⑮)	ツクサ科	ヤブミョウガ属	多年草 草丈0.5~1m 林内の湿気が多い土地を好む 葉(互生 6~7枚が車輪状) 花(白色の1日花) 葉の色や形がミョウガ(ショウガ科)に似ることからの名 食用・漢方薬
39	キャッサバ	トウダイグサ科	イモノキ属	熱帯低木 タピオカの原料 葉(5~10小葉) 茎の根元に芋が付く 世界の約10億人の食料やエネルギー源となっている重要な作物
40	トラベ	トラベ科	トラベ属	常緑低木 暖地の海岸に多く自生 枝葉は切ると悪臭を発する 葉(互生 革質 枝先に集まる 周辺部がやや内側に巻く) 花(雌雄異株 芳香のある白い5弁花)
41	チョウセンアサガオ (写真⑬)	ナス科	チョウセンアサガオ属	1年草 草丈1~2m インド原産 江戸時代に渡来 茎(直立) 葉(互生 大型) 花(15~20cmの漏斗状の白い花) 全草が有毒
42	ワルナスビ (写真⑱)	ナス科	ナス属	多年草 アメリカ南東部原産 葉や茎に棘が多い 一度生えると完全に駆除するのは難しい 花(白・淡青色) 果実(プチトマトに似る) 全草有毒で質の悪い生態によることからの名 1906年牧野により発見・命名 要注意外来生物に指定
43	マサキ	ニシキギ科	ニシキギ属	常緑小高木 海岸近くの林に育成 葉(対生 厚くて革質 強い光沢) 花(緑白色の小花を多数つける) 果実(3~4裂して4個の朱色の種子が現れる) 垣根・庭木
44	アキニレ	ニレ科	ニレ属	落葉高木 水辺を好む 枝(ジグザグに伸びる) 葉(互生 3~5cmと小型 光沢あり) 花(ニレ科では珍しい秋開花)
45	ナンバンギセル (写真⑲)	ハマウツボ科	ナンバンギセル属	1年生寄生植物(イネ、ススキ、ミョウガ、サトウキビなどの根に) 全長15~50cmの花柄 花(赤紫色2~3cmの筒型) 万葉集にも登場
46	イトザクラ	バラ科	サクラ属	落葉高木 エドヒガンの枝が長く垂れるタイプ 別名シダレザクラ 葉(鋸歯 葉柄毛が密生) 花(葉の展開前 淡紅色の5弁花 萼や花柄にも毛が多い)
47	セイヨウバクチノキ	バラ科	サクラ属	常緑小高木 ブルガリ・セルビア原産 株立ち 樹皮(剥がれない) 葉(互生 8~15cm 光沢あり) 花(多くの芳香のある白い5弁花)
48	セコイア (写真⑲)	ヒノキ科	セコイア属	常緑針葉樹 樹高60~115m アメリカ西海岸原産 和名セコイア スギ・イチイモドキ 葉(扁平 線形 気孔帯が明瞭) 雌雄同株 国際自然保護連合で絶滅危惧種に指定
49	イブキ	ヒノキ科	ビャクシン属	常緑高木 別名ビャクシン 葉(鱗片葉と針状葉の2型) 雌雄異株 茨城県いぶき山に多く生えていることからの名
50	メタセコイア	ヒノキ科	メタセコイア属	落葉針葉樹 中国原産 和名アケボノスギ 葉(線形 対生 秋に紅葉して枝と共に落ちる) 雌雄同株の雌雄異花 国際自然保護連合で絶滅危惧種に指定
51	モミジバフウ	フウ科	フウ属	落葉高木 アメリカ東南部原産 樹皮(コルク層が発達) 葉(互生 カエデに似て5~7裂の掌状 美しく紅葉) 雌雄同株 果実(イカ状で棘あり)
52	アベマキ	ブナ科	コナラ属	落葉高木 クヌギに似る 樹皮(コルク層が発達) 葉(互生 裏星状毛が密生 針状の鋸歯) 雌雄同株 ドングリ(クヌギより少し大きい) 薪炭材・シイタケの原木・コルクの代用・生薬
53	アラカシ	ブナ科	コナラ属	常緑高木 葉(互生 先端尖る 革質で硬い 上半部に大きな鋸歯 裏白味を帯びる) 雌雄異株 ドングリ(その年の秋に熟す)
54	イチイガシ	ブナ科	コナラ属	常緑高木 奈良公園に多く見られる 樹皮(剥がれ落ちる) 葉(互生 やや硬い 上半分に鋸歯 裏黄褐色の星状毛) 雌雄同株 ドングリ(生食可)
55	ウメバガシ	ブナ科	コナラ属	常緑高木 海岸や岩場に多い 日本産の常緑のカシ類では特に丸くて小さく硬い葉を持つ 雌雄同株 ドングリ生食可 備長炭の用材

56	クヌギ	ブナ科	コナラ属	落葉高木 樹液にカブトムシなどの昆虫が集まる 葉(互生 左右が不整形 針状の鋭い鋸歯 クリの葉に似る 枯れても枝に残る) 雌雄同株 ドングリ(2年かかる コナラ属で最も大きい 生食不可) ヤママユガの幼虫の食樹 薪炭材・シタケの原木・染料・生薬
57	ツクバネガシ	ブナ科	コナラ属	常緑高木 葉(革質で先端にまとまって付く 縁は少し内側に巻き込む アカガシより細い) 雌雄同株 カシの仲間では最も寒がり 神戸内陸に多い 椎茸の原木 ドングリ(2年かかる)
58	スダジイ	ブナ科	シイ属	常緑高木 温暖な沿岸沿いの山地に自生 ブロッコリー状の樹形 葉(互生 革質で厚い 裏面白から淡茶褐色) 花(雌雄同株 雄花垂れ下がる) ドングリ(2年かかる ツブラジイより細長い 生食可) 黄八丈の黒色部の染料
59	ツブラジイ	ブナ科	シイ属	常緑高木 別名コジイ 暖地性で肥沃な土地を好む 葉(互生 スダジイより薄い 裏面灰褐色) 雌雄同株 ドングリ(スダジイより小さい 生食可)
60	マテバシイ	ブナ科	マテバシイ属	常緑高木 温暖な沿岸沿いに自生 葉(互生 厚い皮質 光沢あり) 花(雌雄同株 雄花は立ち上がる) ドングリ(長楕円形 2年かかる 生食可)
61	ミスオジギソウ (写真⑭)	マメ科	ミスオジギソウ属	多年草 水生植物 熱帯に分布 強い日照を好む オジギソウのように刺激すると葉を閉じることからの名 葉(2回羽状複葉) 花(黄色の5弁花) 茎を浮袋とする 食用
62	イヌマキ	マキ科	マキ属	常緑針葉樹 暖地の海岸に近い山地に自生 葉(互生 細長い 扁平 中央脈が明瞭) 雌雄異株 2022年着工の首里城の国王専用の手すりなど象徴的な部分に使用の予定 生薬・果実酒
63	アカマツ	マツ科	マツ属	常緑針葉樹 別名メマツ 樹皮が赤味を帯びることからの名 山地の尾根筋などの乾いたやせ地によく生育 二葉松 葉(クロマツにくらべて色が薄く細く短く柔らかい) 雌雄同株 陽樹
64	クロマツ	マツ科	マツ属	常緑針葉樹 別名オマツ 樹皮が黒褐色であることからの名 日本と韓国の海岸に自生 二葉松 葉(アカマツに比べてたくて長い) 雌雄同株
65	ダイオウマツ	マツ科	マツ属	常緑針葉樹 別名ダイオウショウ アメリカ東南部原産 大型の松 葉40cm以上 1912年日本に渡来 三葉松 雌雄同株
66	ヒラヤマシダー	マツ科	ヒラヤマシギ属	常緑針葉樹 ヒマラヤ原産 ヒンドゥー教において聖なる樹木として崇拜 日本には明治時代に 葉(柔らかな針状 束生) 雌雄同株 建設材料・薬品
67	シキミ	マツブサ科	シキミ属	常緑小高木 葉(互生 厚く皮質 枝先に集まる) 花(白色) 果実(8角形) 葉・茎・根・花・果実・種子など全草が猛毒 植物毒としては最強のものの一つ 仏事に使用
68	ツクシハギ (写真⑮)	マメ科	ハギ属	落葉半低木 日本固有種 枝先(垂れる) 葉(先端がやや凹む) 花(遠目に白い部分が目立つ紅紫色の花) 万葉集に詠まれた
69	ヤマハギ (写真⑯)	マメ科	ハギ属	落葉小低木 秋の七草 アジア原産 枝(下垂しない) 葉(3出複葉 小葉は丸みを帯びる) 花(長柄 紅紫色の蝶形) 万葉集に141首詠まれている
70	イスノキ	マンサク科	イスノキ属	常緑高木 暖地の山林に自生 葉(互生 革質 艶あり 虫こぶが多数形成) 花(雌雄同株 赤い小さな花) 材は日本有数の重さと硬さがある 染料・糊薬・櫛・木刀に利用
71	ハンカチノキ (写真⑰)	ミズキ科	ハンカチノキ属	落葉高木 中国原産 葉(互生 長柄 先端は尾状) 花(頭状花序 2枚の苞葉が良く目立つ この苞葉が日傘の役割で生物に有害な紫外線をカットしている)
72	キハダ	ミカン科	キハダ属	落葉高木 外樹皮を剥がすと内樹皮が黄色いのが特徴で名の由来 樹皮(コルク質) 葉(対生 奇数羽状複葉) 雌雄異株 実(香りも味もミカンに似るが小さく約1cm) 生薬・染料
73	コクサギ	ミカン科	コクサギ属	落葉低木 枝や葉に独特の臭気あり 葉(2個ずつ左右交互に互生 質は柔らかい) 花(雌雄異株) カラスアゲハ・オナガアゲハの食草
74	アサザ	ミツガシワ科	アサザ属	多年草 浮遊植物 ユーラシア大陸の温帯地域に生育 葉(10cm程の切れ込みのある浮葉) 花(雌雄異株 黄色の5弁の1日花 花弁の周辺が細かく裂ける) 準絶滅危惧(NT) 食用
75	ウリハダカエデ	ムクロジ科	カエデ属	落葉高木 日本固有種 日当たりの良いやや湿気のある山地に自生 樹皮(暗緑色で黒色の縞模様) 葉(12cm程 3~5裂)
76	トチノキ (写真⑱)	ムクロジ科	トチノキ属	落葉高木 日本固有種 適潤で肥沃な林を好む 葉(対生 掌状複葉 長柄 鋸歯 裏有毛) 花(雌雄同株) 果実(クリに似る) 材・食用・蜜源植物・薬用 マロニエ(セイヨウトチノキ)
77	オガタマノキ	モクレン科	モクレン属	常緑高木(モクレン科植物の中では唯一常緑樹) 葉(互生 革質で全縁縁が波打つ) 花(コブシやモクレンより小さい) 古来から神聖視され御神木とされる 寒さに弱い
78	トウオガタマ	モクレン科	モクレン属	常緑小高木 別名カラタネオガタマ 中国原産 葉(互生 光沢あり) 花(黄白色 パナナに似た強い芳香) 神社に多い
79	ハウノキ	モクレン科	モクレン属	落葉高木 日本最大級の葉と花をもつ 適潤で肥沃な林を好む 葉(互生 枝先に集まる 全縁) 花(1日目に雌蕊が成熟し2日目に雌蕊が閉じて雄蕊が開く 甘い芳香) 食・薬用・材
80	サカキ	モッコク科	サカキ属	常緑小高木 陰樹 葉(互生 芽は鎌状 厚みのある皮質) 花(黄白色の5弁花) 神事に用いられた
81	イイギリ (写真⑲)	ヤナギ科	イイギリ属	落葉高木 葉(互生 枝先に束生 表は暗緑色 裏白っぽい) 葉柄(長くて赤い) 花(黄緑色 雌雄異株) 果実(ブドウの様 赤紫色)

82	シンテッポウユリ	ユリ科	ユリ属	多年草 草丈0.7~1.5m タカサゴユリとテッポウユリの交雑種 繁殖力が強い 8~10か月で開花 葉(2~7mmと幅が狭い)
83	ハクサンボク	レンブクソウ科	ガマズミ属	常緑小高木 別名イヌデマリ 南方系 葉(対生 ガマズミと違い光沢あり) 花(碗型の花序に小花を密集させる) 実(赤色)
84	ミヤマガマズミ	レンブクソウ科	ガマズミ属	落葉低木 葉(対生 葉柄は赤味を帯びる 先端尖る) 花(1対の葉と共に散房花序で白い小花を密に付ける) 実(赤色) ガマズミより標高の高い山地に生える 昔から生活に密着した樹

動物界

1	ウシガエル	アカガエル科	アメリカアカガエル属	体調11~18cm アメリカ原産 ♂の背面(暗緑色で淡黒色の斑紋) ♀の背面(褐色 斑紋が♂より多い) 夜行性 肉食性 冬眠 重点対策外来種に指定
2	ニホンアマガエル	アマガエル科	アマガエル属	大きさ2~4.5cm 周囲に合わせて体の色を変えることができる 前脚に4本・後足に5本の指と吸盤あり 皮膚の粘膜から毒を分泌するので注意
3	アオスジアゲハ	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ属	大きさ32~45mm 黒地に青白い筋が1本入ったアゲハチョウ クスノキが幼虫の食草 南方系
4	ムラサキシジミ	シジミチョウ科	ムラサキシジミ属	大きさ14~22mm 翅の表が青紫色に輝くシジミチョウ 翅の裏は茶色 シイ・カシの樹の周辺にみられる(幼虫の食草) 成虫で越冬
5	ツマグロヒョウモン (写真⑧)	タテハチョウ科	ヒョウモンチョウ属	大きさ27~38mm ♂(後翅のヘリが黒い) ♀(前翅の端の黒色が目立つ) 幼虫(黒とオレンジ 体中に突起あり スミレの葉を食べる)
6	ホタルガ	マダラガ科	ホタルガ属	大きさ45~60mm 赤い頭部と黒地に1本の太い白帯が印象的なガ サカキ・ヒサカキの葉が幼虫の食草
7	マユタテアカネ	トンボ科	アカネ属	大きさ31~43mm 木陰のある水辺に生育 ♂(腹部が赤色) ♀(褐色) 和名は顔面にある盾状斑に由来
8	リスアカネ (写真⑩)	トンボ科	アカネ属	大きさ35~47mm 翅の先端に黒褐色部分があるアカトンボ 水辺から離れない 和名はスイスのトンボ学者リスに由来
9	ウスバキトンボ	トンボ科	ウスバキトンボ属	大きさ44~54mm くすんだ黄色~赤褐色 熱帯・亜熱帯に生息 旧盆の頃に増えるので「精霊トンボ・盆トンボ」 寒さで死滅
10	ハラビロカマキリ (写真⑫)	カマキリ属	ハラビロカマキリ属	大きさ45~70mm きれいな緑色のちょっと太めのカマキリ 卵で越冬 ハリガネムシによる寄生がひとときが多い
11	ナガコガネグモ	コガネグモ科	コガネグモ属	大きさ(♂8~12mm ♀20~25mm) 腹部に黄色と黒の細かい縞模様がある大きなクモ
12	ハリガネムシ (写真⑭)	線形動物門	ハリガネムシ綱	水生動物 体に伸縮性がなくのたうち回るような動き 世界で2000種以上日本に14種 カマキリ・バッタ・キリギリス・ミズスマシなどの昆虫類の寄生虫 カマキリを水に飛び込ませることで水中へ脱出→水中で産卵→ハリガネムシの幼虫は水中で待機→カゲロウ・ユスリカの幼虫に捕食されるのを待つ→カゲロウなど羽化して陸上生活に変わり肉食昆虫に捕食→ハリガネムシは体内で大きくなり宿主の肉食昆虫を支配→川で肉食昆虫は入水自殺→川魚の餌になり水中昆虫の捕食される料が減る→川の水中昆虫がいることにより川の生態が守られる 森林と河川の生態系に影響を与えその役割も分かった

まだら模様の樹皮を持つ樹：サルスベリ・プラタナス・リュウブ・ナツツバキ・シロマツなど

神前に葉を供える木：オガタマノキ・サカキ・タブノキ・ヤブニッケイなど

コクサギ型葉序：ケンボナシ・サルスベリ・イソノキ・ヨコグラノキ・ヤブニッケイ・ネコノチチなど

ミツバツツジの種類：トウゴクミツバツツジ・サイコクミツバツツジ・トサノミツバツツジ・キヨスミツバツツジ・ヤクシマミツバツツジ・ダイセンミツバツツジ など

その臭気のためにクサギの名を持つ木：コクサギ(ミカン科) クサギ・ハマクサギ・イボタクサギ(シソ科)

アサザに似る植物：ガガブタ(花冠白色) ヒツジグサ(日本に自生する唯一のスイレン 未の刻午後2時に開花することからの名)

ハマビワに似る植物：ビワ・イヌビワ・シロダモ・バリバリノキ・コゴノキ



①アアキノタムラソウ



②イイギリ



③イチヤクソウ



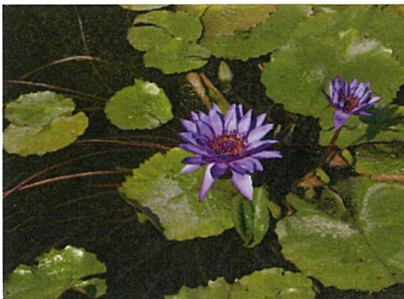
④ウド



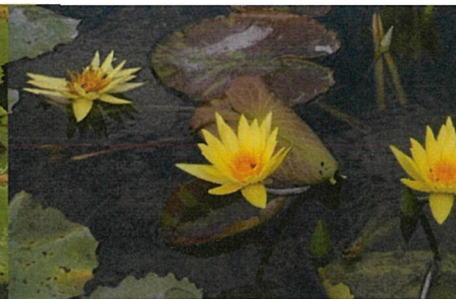
⑤カゴノキ



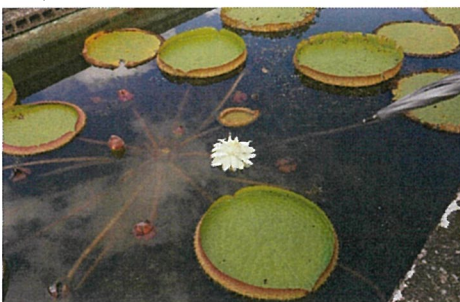
⑥カゴノキ



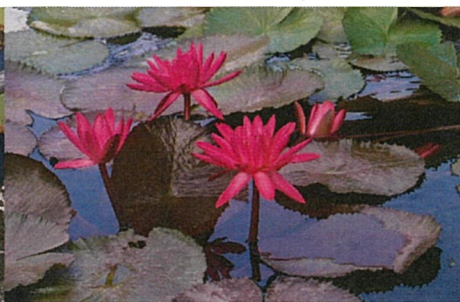
⑦スイレン



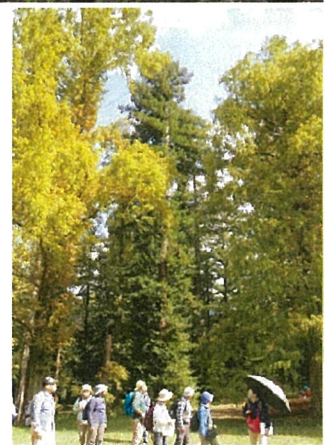
⑧スイレン



⑨オオオニバス



⑩スイレン



⑪セコイアメスギ



⑫チャノキ



⑬チョウセンアサガオ



⑭ツクシハギ



⑮ツクバネウツギ



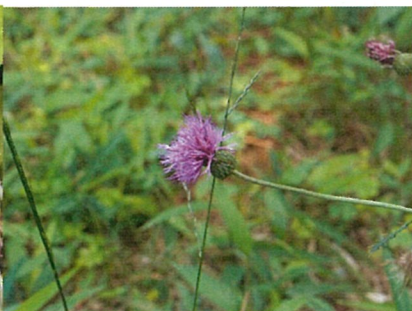
⑯ツマグロヒョウモン



⑰トチの実



⑱ナンバンギセル



⑲ノアザミ



⑳ハラビロカマキリ



㉑ハリガネムシ



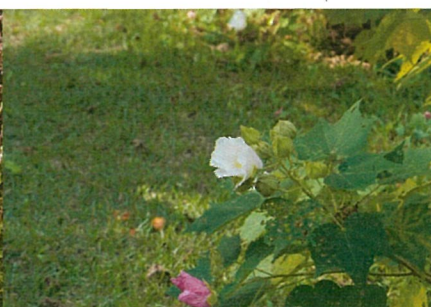
㉒ハンカチノキ



㉓ヒヨドリバナ



㉔フジバカマ



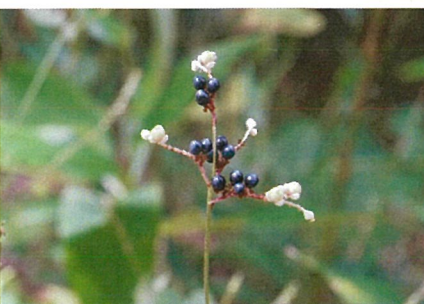
㉕フヨウ



㉖ミズオジギソウ



㉗ミツバアケビ



㉘ヤブミョウガ



㉙ヤマハギ



③⑩ リスアカネ



③⑪ ワルナスビ



武田先生と里山を歩こう会

作成 2023年11月24日(金)

八田佳子 野村美智子

行先	能勢 妙見の森
活動実地日 天気	2023年11月17日(金) 曇
コース概要	妙見口から徒歩でケーブル リフトの往復
集合時間 集合時刻	妙見口 10時集合
解散時間	妙見口 15時
参加人数	13名
歩数	約11,000歩
費用	阪急 能勢電フリーパス利用 1,600円



今年度の活動予定表では高御位山でしたが、歩こう会初回の活動先である、妙見山のケーブル・リフトが12/3で営業終了と知り、急遽 全員一致で行先変更になりました。

葉っぱの裏は白色でこの株には 昨年の花が赤い実を付けており 今年の白い花も咲いていた



シロダモ



ノコンギク

紫の小さな花で種の上にたんぽぽに似た毛が出ているヨメナと似ているがヨメナには毛がない



春の葉は細く
今の葉は広い

ノジスミレ



コアカソウ

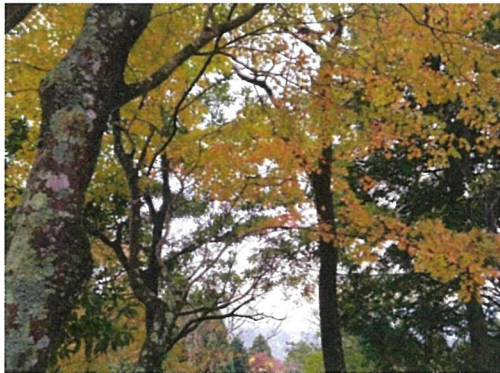
葉っぱの先端が
伸びている



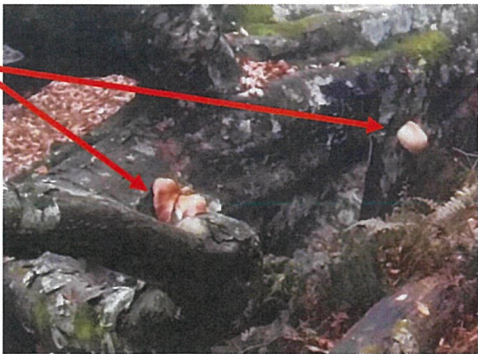
アオツツラフジ
黒色の実の中の種がアンモナイトの形



コハウチワカエデ
ブナ林にあるが日
本海側にも生える



倒木に生えた毒キノコの
ツキヨダケ
椎茸と似ている





オオバイノモトソウ

鹿が食べないので多く見られる

同じ株で 胞子の付く細い葉っぱと胞子の付かない葉っぱがある



兵庫と大阪の境

昨夜からの 雨も上がり 曇り空の一日でしたが 雨具も出さずに 観察できました
初回の 2019/4/12(金)は 初谷コースのハイクで沢渡りも ありましたが今回は往復のケ
ーブルとリフト 季節も違い新たな妙見山でした。

1	クレソン	アブラナ科	オランダシシガシラ属	多年草 抽水・沈水植物 別名オランダシシガシラ ヨーロッパ・中央アジア原産 繁殖力旺盛 葉(奇数羽状複葉) 花(白い十字状の4弁の小花) 要注意外来生物に指定 食用・生薬
2	カヤ	イチイ科	カヤ属	常緑高木 雌雄異株 枝(対生) 葉(互生 線形 先端尖って痛い) モミと似るが葉先が割れない イヌガヤは葉先が痛くない 最高級の基盤・将棋盤
3	キンエノコロ	イネ科	エノコログサ属	1年草 草丈20~90cm 穂に生える毛が黄色で光を受けるさまを金色と見たことからの名 ヨーロッパ原産
4	チカラシバ (写真⑭)	イネ科	チカラシバ属	多年草 真っ直ぐなブラシの様な穂が特徴的で大株になる 引っ付き虫 根・茎・葉を引っ張っても抜けないしぢげない
5	オオバノイノモトソウ	イノモトソウ科	イノモトソウ属	常緑シダ植物 草丈20~60cm 葉(栄養葉は1回羽状複葉で紙質 胞子葉は長く幅が狭くソーラスが縁につく)
6	コアカソ (写真⑰)	イラクサ科	カラムシ属	落葉小低木 茎(基部は木質化 赤色) 葉(対生 先が尾状に伸びる 鋸歯大きい) 花(雌雄同株) アカソは草本
7	イワカガミ	イワウメ科	イワカガミ属	常緑多年草 草丈10~20cm 高山植物の1種だが高山帯から山地の草地・岩場に生育 茎(濃紫色) 葉(茎の先端に束生 円形で厚く光沢あり) 花(総状花序 漏斗型で5裂の花を3~10個固めて付ける 淡紅色) 岩場に多く葉に光沢があることからの名
8	タカノツメ (写真⑮)	ウコギ科	タカノツメ属	落葉高木 葉(3出複葉 互生 枝の先に束生 秋に美しく黄葉) 花(淡緑色) 果実(球形 黒色) 山菜
9	ノコンギク (写真④)	キク科	シオン属	多年草 草丈30~60cm 群生 葉(有毛 根出葉と茎葉がある) 花(舌状花は紫色 管状花は黄色 ヨメナによく似るが果実に冠毛があることで区別)
10	シロダモ (写真③)	クスノキ科	シロダモ属	常緑高木 葉(互生 枝先に密につく 裏白色 3行脈が目立つ) 花(雌雄異株 黄褐色の小花) 果実(赤色 翌年の秋に付くのではなと一緒には觀賞できる) 庭木・防風林・器材・ロウソクの材料 アオスジアゲハの食草
11	コヤママキ	コヤママキ科	コヤママキ属	常緑高木針葉樹 日本固有種(本種のみで属・科を構成) 葉(線形) 花(雌雄同株) マツボックリ(先端から葉が生じるのが特徴) 酸性土壌を好み中央構造線沿いの標高700m付近の山地の岩場に多い 古墳時代の木棺に使用 空海と高野山
12	ムラサキシキブ (写真⑥)	シン科	ムラサキシキブ属	落葉低木 葉(対生 黄緑で薄く艶無し) 花(集散花序 淡紫色の小花) 果実(紫色 葉の上に乗っているように見える コムラサキよりまばらに付く)
13	ラショウモンカズラ	シン科	ラショウモンカズラ属	多年草 草丈15~30cm 草全体に芳香あり 葉(対生 ハート形) 花(4~5cm 唇形 鮮紫色 2~3個のまとまりで数段付ける) 花の姿を渡辺綱が羅生門で切り落とした鬼の腕に見立てた名
14	ノジスミレ (写真⑩)	スミレ科	スミレ属	多年草 草丈4~8cm スミレに似る(が、より素朴な感じ やや花期が早い 葉や柄に白い短い毛が多い) 葉(3~6cmのへら型) 花(やや青みの強い濃紫色)
15	ゼニゴケ	ゼニゴケ科	ゼニゴケ属	苔 葉と茎の区別なし やや湿った場所を好む 除去しにくい 雌雄異株
16	イタドリ	タデ科	ソバカズラ属	多年草 草丈0.3~1.5m 群生 別名スカンボ 茎(中空) 葉(互生) 花(雌雄異株) 果実(ハート型の3菱形) 東アジア原産 先駆植物 世界の侵略的外来種ファースト100の1つ 山菜・薬用
17	イスタデ	タデ科	イスタデ属	1年草 草丈20~40cm 別名アカマンマ 葉(互生 葉の根元に毛有) 花(紅紫色の萼片 花弁無し) 果実(真っ赤な瘦果)
18	アカメガシワ	トウダイグサ科	アカメガシワ属	落葉高木 春に出る若葉が紅色をしていることからの名 先駆植物葉(互生 赤く長い葉柄 若葉星状毛密生) 花(雌雄異株 白い小花) 種子(高温にさらされると発芽しやすい) 染料・生薬
19	ナンキンハゼ	トウダイグサ科	ナンキンハゼ属	落葉高木 中国原産 葉(丸みを帯びた菱形 先端は尾状 美しい紅葉) 花(雌雄同株 黄色) 種子(白色 有毒) 蟻の原料
20	カリン	バラ科	カリン属	落葉小~中高木 中国東部原産 幹(樹皮が剥がれて美しい) 葉(互生) 花(白・淡紅色の5弁花) 果実(ナシ状果で石細胞が多い 黄色 芳しい香り 無毛) 加工食品・薬用
21	ヒガンバナ	ヒガンバナ科	ヒガンバナ属	多年草 別名曼珠沙華 中国原産 秋の彼岸に鮮やかな赤い花を咲かせ、秋の終わりに葉が伸びて翌年に枯れる 有毒植物
22	フサフジツギ	フジツギ科	フジツギ属	落葉低木 中国原産 園芸品種(ブツレア) 葉(対生 先端は尾状 裏星状毛密) 花(円錐状花序 小さな4弁花を多数つける 花序に星状毛) 有毒植物
23	アカガシ	ブナ科	コナラ属	常緑高木 材が赤味を帯びることからの名 ふつうはブナ林に生育しない 温帯上部に多い 葉(互生 鋸歯なし) 花(雌雄同株) ドングリ(翌年の秋に熟す)
24	アラカシ	ブナ科	コナラ属	常緑高木 葉(互生 葉中央から先端に粗い鋸歯あり 裏有毛) 花(雌雄同株) ドングリ(その年になる) 温暖の場所を好む
25	ブナ (写真⑦⑧)	ブナ科	ブナ属	落葉高木 日本の温帯林を代表する樹木 葉(葉脈のところで窪んでいる) 花(雌雄同株 葉の展開と同時に開花) 果実(生食可) 1993年ユネスコ世界自然遺産に白神山地のブナ林が登録された
26	サネカズラ (写真②)	マツバサ科	サネカズラ属	常緑つる性木本 別名ピナンカズラ 茎(粘液を整髪料に) 葉(互生 無毛 葉柄は淡紅色) 花(淡黄色の下向きの小花) 果実(真っ赤集合果生薬) 万葉集・百人一首に登場
27	マツカゼソウ (写真⑩)	ミカン科	マツカゼソウ属	多年草 草丈50~80cm 葉(互生 3回3出複葉) 花(多数の白い4弁花) ミカン科では唯一の草本 毒草 鹿の忌避植物
28	ナンテン (写真⑬)	メギ科	ナンテン属	常緑低木 中国原産 1属1種 株立ち 葉(3回3出羽状複葉 全縁) 花(円錐花序 6弁の白花) 果実(赤紫色) 薬用

29	イロハモミジ (写真①)	ムクロジ科	カエデ属	落葉高木 紅葉の代表格 葉(対生 掌状に深く5~7裂 先が尾状に鋸歯が粗く不揃い) 花(雌雄同株 暗紫色 新葉の展開と同時に開花)
30	コハウチワカエデ (写真⑬)	ムクロジ科	カエデ属	落葉低木 別名イタヤマメイツ 日本固有種 山地の溪流沿いに多い ハウチワカエデより葉や樹形がより小型 葉(5~8cm 葉脈・葉柄に毛が多いことが特徴) 花(クリーム色の5弁花 花序毛密生)
31	ハウチワカエデ	ムクロジ科	カエデ属	落葉高木 別名メイゲツカエデ カエデの仲間の中でも掌状の葉が大きい 他のカエデより寒冷に強くブナ帯に生育する 花(暗紅紫色)
32	ネズミモチ (写真⑫)	モクセイ科	イボタノキ属	常緑小高木 果実がネズミの糞に似ることからの名 陽樹 葉(対生 鋸歯無し 厚手革質 日に葉をかざすと葉脈が透けない) 花(白い小花を円錐状に出す) 生薬
33	ヒイラギ (写真⑤)	モクセイ科	モクセイ属	常緑小高木 葉(対生 若い木は鋭い鋸歯 老木は先端のみに鋸歯) 花(雌雄異株 冬に白い小花を多数つけ甘い芳香あり) 実(黒っぽい暗紫色) 葉を節分の魔除けに使用
34	セイヨウヒイラギ	モチノキ科	モチノキ属	常緑小高木 葉(互生 ヒイラギより少し大きい) 花(雌雄異株 白色の4弁花) 果実(クリスマスの頃に赤く色づく) クリスマスの装飾の定番

菌界

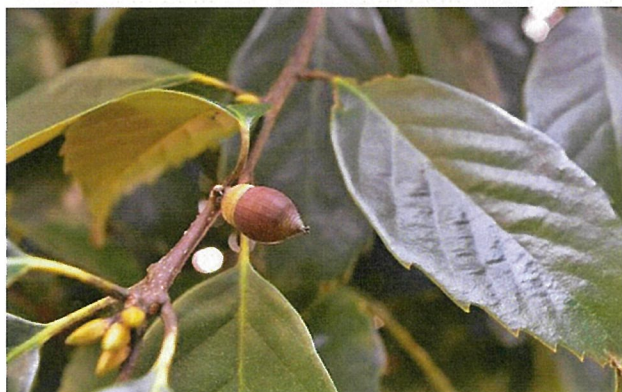
1	ツキヨタケ	ホウライタケ科	ツキヨタケ属	ブナの枯れ木に群生 毒キノコ ヒラタケ・ムキタケ・シイタケに似るので注意 ひだに発光性を有する
---	-------	---------	--------	---



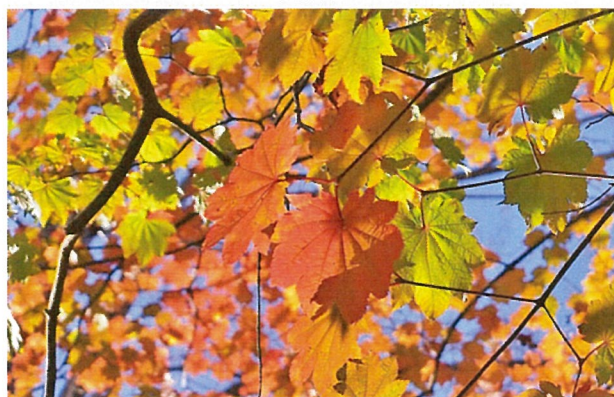
ブナ



アカガシ



アラカシ



ハウチワカエデ



2023.11.17妙見山



①イロハカエデ



②サネカズラ



③シロダモ



④ノコンギク



⑤ヒイラギ



⑥ムラサキシキブ



← ⑦ブナ林
林床はシカ食害で植物は
ほとんど無い

⑧ブナ林
網掛けをしている部分だけ林床
植物がある↓





⑨ミゾソバ



⑩マツカゼソウ



⑪ノジスミレ



⑫ネズミモチ



⑬ナンテン



⑭チカラシバ



⑮タカノツメ



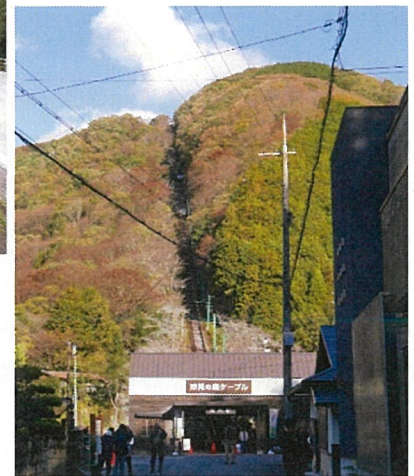
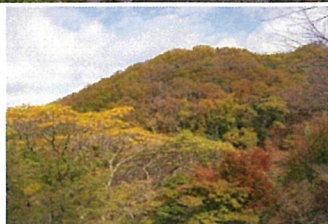
⑯コハウチカエデ

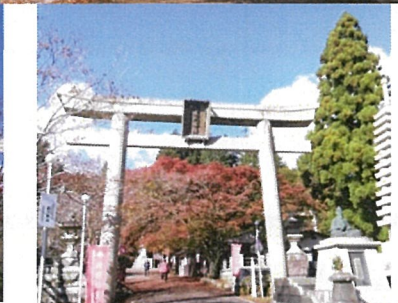
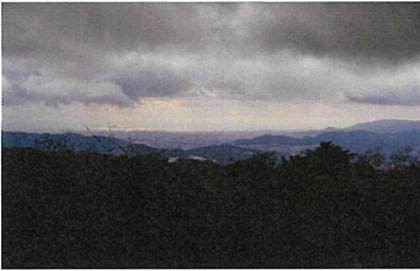


⑰コアカソ



ケーブル







六甲山



甲山





尼崎市菊花展 尼崎城にて



←岩本さん

文化祭作品展 煎田良吉さん リメイク缶



文化祭作品展 鳥巢由美子さん
クリスマスリース



2023. 10/17 加賀山

妙見山 23.11.17 雨→晴



① ネズミモチ (在来種)



⑤ クレソン
角野先生 家庭
やレストランが
廃棄したものが
育っている。



③ アラカシ
いわゆるどんぐりの木

② シロダモ
・花は今年咲いたもので
実は去年のもの。実と花が同時に
楽しめる。
・葉の裏は白い

④ イタドリ
雌雄別株。

⑥ カヤ

- ・ 基盤の最高素材
- ・ 種子は食用油

種子は
食用油

ごはん
基盤の最高素材



⑧ ノコンギク



⑨ チカラシバ

- ・ エノコグサ (ネジヤシ) と異なり、穂がまっすぐに伸びているのが特長 引っ付き虫



エノコグサ

⑩ アラカシ

いわゆるどんぐりの木



葉が厚く
粗い
金歯
かお

⑪ サネカズラ

- ・ 別名 ビナカズラ 整髪料としてりよう。
- ・ 赤い実



玉子
ズラ
ビナカズラ
整髪料
利用



⑦ カリン

⑬ ミズソバ (ミヅソバ?)
 ・タデ科 食用植物 ピンクの花



⑫ ノジスミレ
 紫の花



⑬ コアカソ
 ・対生 ひし形の葉
 緑の実。



⑭ アオツツラフジ
 アオツツラフジ



⑭ アオツツラフジ (青葛藤)
 ・実は黒 種はアンモナイトの模様
 ・枝分かれしながら左から右巻き方向
 に他の物に巻きついて長さ2メートル
 (m) 以上にも伸び、若い時は細かい
 毛が密生するのが特徴である。W

⑮ 房藤ウツギ

マツカゼソウ

マツカゼソウ

ミカン科
の唯一の「草」

⑰ マツカゼソウ

・ミカン科唯一の「草本」W



ブナ林



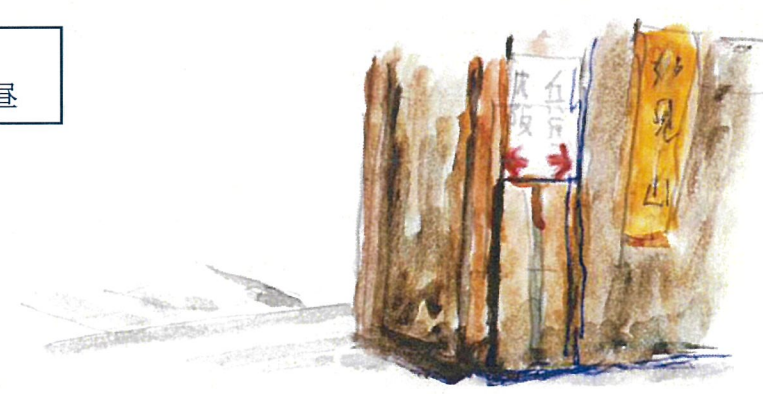
⑱ ブナ

・標高 600m 級の日本の南限

ブナは通常、寒い地域でしか育たないので近畿地方のような暖かい場所では標高 1,000m 級の高い山にしか生息していません。妙見山は 660m と標高が低いにもかかわらず多くのブナが残っており、大変珍しいことから大阪府と兵庫県川西市の天然記念物に指定されています。



①9 甲山
お屋



②0 県境
←大阪府
→兵庫県



22 開運殿（本殿）

・実慶長10年（1605）能勢頼次公によって草創され、天明7年（1787）能勢頼直公の本願によって再建。明治28年11月に大改修され、現在に至る。内陣の御宮殿には開運の守護神である北辰妙見大菩薩が祀られ、終日ご祈祷等がなされる。



21 鳥居

・明治37年建立。よく尋ねられるのが、「妙見山はお寺ですか？神社ですか？」という質問です。鳥居や狛犬があったり、「妙見宮」とも呼び慣わされているところから出た疑問です。これは、鳥居の左側に『日蓮宗霊場能勢妙見山』と刻まれた石碑があることからもわかるように、日蓮宗のお寺です。お寺には普通、〇〇山〇〇寺という風にお寺の名称がつきますが、能勢妙見山には寺号がついていません。実はこの能勢妙見山は、ここから北の方角にある真如寺というお寺の飛び地境内となっており、正式には「無漏山真如寺境外（けいがい）仏堂能勢妙見山」と呼ばれています。※石碑に「日蓮宗霊場」とありますが、霊場とは、神聖なところ、すなわち清らかなる聖域ということです。

ムラサキシギブ
ムラサキシギブ



23 ムラサキシギブ

シャクナゲ



24 シャクナゲ



25 ムケール
山上駅



26 ケール
妙見の森
・乗り場

武田先生と里山を歩こう会

作成 2023年12月7日(木)

野村美智子

行先	六甲山 紅葉谷コース
活動日 天気	2023年12月1日(金) 晴れ時々曇り
コース概要	六甲ケーブル→山上バスでロープウェイ駅→紅葉谷ルートで有馬温泉へ
集合場所 集合時間	ケーブル下 9:30
解散時間	14:20
参加人数	8名
歩数	約14,000歩
費用	ケーブル片道600円 バス代260円

観察した主な草木 (太字は写真あり)

ツルウメモドキ、ネジキ (葉の形が梅に似ている)、**アキグミ**、ツルシキミ、**ミヤコザサ**、スズタケ (節がなく真っ直ぐ 六甲山では花が咲いて枯れ始めている)、コカンスゲ (岩場にある)、**ブナ** (六甲山には約130本ある)、タチスボスミレ、ミヤコアオイ、スハマソウ (キンポウゲの仲間です。春先にきれいな花が咲く)、ミヤマカタバミ、ウリハダカエデ、**イワガラミ** (大木につるでからみつく)、サジガンクビ、**イヌブナ** (ブナに比べて樹皮が黒く株立ちしやすい)、**ウラジロノキ**、ササノハスゲ、リョウメンシダ (表も裏も同じ緑色で標高の高い谷沿いにある)、クロモジ (和菓子に使う)、コアジサイ、シロバナウンゼンツツジ、ヒサカキ、シシガシラ、オトコヨウゾメ (ガマズミと同じ仲間)、コゴメウツギ、ヤブムラサキ、**ムラサキシキブ**、ウリカエデ、コハウチワカエデ (葉柄に毛があり標高の高い所にある)、ナガバナタチスボスミレ、ウラジログシ、リョウブ、ツリバナ、イヌガヤ、キンミズヒキ、ヨシノアザミ、オトコエシ (白色の花 オミナエシは黄色の花)、チドリノキ (ヤマシダカエデとも言い対生で溪流沿いに多く 六甲山では珍しい)、ベニドウダンツツジ、フタフジウツギ、イロハモミジ、オオイタチシダ、コガクウツギ、タラ、ツルグミ、タラヨウ (葉書の木) オオバイノモトソウ、タチシノブ



ウラジロノキ

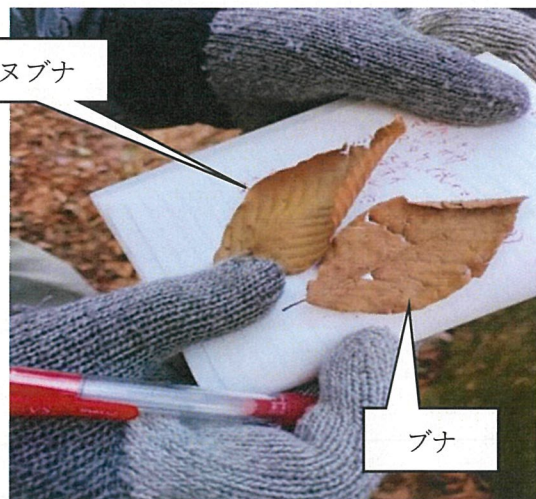


アキグミ

小さな実で食べると少し渋い



ムラサキシキブ
実が上を向いている。



イヌブナ

ブナ

イヌブナは六甲山には少なくブナに比べて幹が黒い

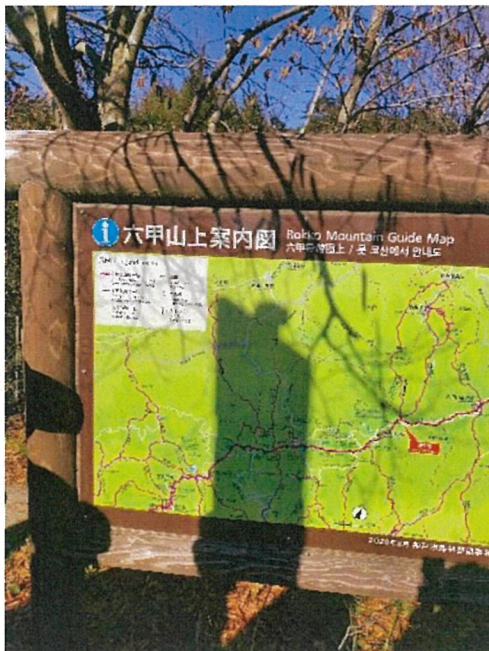


イワガラミがブナ
に絡みついている



ミヤコザサ

節は丸く膨れており 枝分かれしない。
笹の根っこは 雪の深さに対応している。
(えべっさんに使われる笹ではない)





『太陽と緑の道』の一部で六甲山山頂付近から有馬温泉に下る紅葉谷コースを歩きました。外気温は5度でしたが 風もなくハイキング日和でした。落葉樹の落葉が敷き詰められた下りの階段は私にとっては険しい道でしたが、葉っぱを落とした枝の間から差し込む光で 木々は長い影を作っていました。花は殆ど見られなかったのですが 残っていたクロモジの黒い実、ウラジロノキの赤い実、ムラサキシキブの小さな紫の実を教えてくださいました。市街地に近い市民の山 六甲山で、130 本ほどのブナが確認されており、ブナ林の標識もありました。有馬温泉到着解散後、男性陣は「金の湯」へ 女性陣はせめて「足湯」と思ったのですが 込み合っており入れませんでした。

2023.12.1六甲山紅葉谷

1	イワガラミ	アジサイ科	アジサイ属	落葉つる性木本 高さ10~15m 山地の岩崖・林縁に自生 気根を出して付着 葉(対生 鋸歯・葉の先端棘のように尖る) 花(ガクアジサイに似る 白い装飾花の萼片1枚 似たツルアジサイは萼片4枚) 山菜
2	コアジサイ	アジサイ科	アジサイ属	落葉低木 日本固有種 アジサイよりも全体に小さく花序に装飾花が無い 株立ち 葉(対生 大きな鋸歯 有毛 黄葉) 花(6月に薄紫色の両性花の5弁花が密生)
3	コガクウツギ	アジサイ科	アジサイ属	落葉低木 木の芽囲気がウツギに似ることからの名 小枝は赤紫色葉(対生) 花(枝先にクリーム色の両性花の5弁花と装飾花が10個程集まって周りの装飾花が目立つ)
4	カヤ	イチイ科	カヤ属	常緑針葉樹 雌雄異株 耐陰性が強い 枝(対生) 葉(線形 触ると痛い 先が割れない モミは先が割れる) 種子(1年半で熟す) 食用・生薬・高級基盤 六甲山系では自生は少ない
5	ミヤコザサ	イネ科	ササ属	ササ類 山地の林床・林縁に生育 日本固有種 稈(径2~4mm 直立分枝しない) 節(球状に膨れる) 葉(表面無毛 裏面軟毛が密生) 六甲山では400~600mあたりから徐々にネザサと置き換わり山上ではミヤコザサばかりとなる
6	スズタケ	イネ科	スズタケ属	ササ類多年生草本 ブナ林の林床・林縁に生育 稈(淡紫褐色 直立 1.5~3m) 葉(上部の節から各1本ずつ出す 30cm 革質 無毛) 花(120年の寿命が尽きる前に一度咲く) 竹筴・籠・食用
7	チヂミザサ	イネ科	チヂミザサ属	多年草 草丈10~30cm 葉の形がササに似てややしわがあることからの名 葉(互生) 花穂(小穂に長い紫色の芒) 果実(引っ付き虫)
8	ミヤコアオイ	ウマノスズクサ科	カンアオイ属	常緑多年草 日本固有種 京都で初めて発見されたことからの名 葉(長い紫褐色の葉柄 雲紋模様 光沢なし) 花(花弁無く萼が弁状 その萼筒の口部がびれる 淡紫褐色 葉の基部に下向きに付く)
9	オトコエシ	オミナエシ科	オミナエシ属	多年草 草丈0.6~1m オミナエシ(花黄色)に似るが遙かに遅しい 全体に毛が多い 葉(対生 羽状で深裂するか鋭い鋸歯が並ぶ) 花(白色) 薬用
10	ミヤマカタバミ	カタバミ科	カタバミ属	多年草 草丈6~10cm 山地の林床に生育 葉(根生 長い葉柄 ハート形の3小葉) 花(白い5弁花) 葉柄・葉裏・花茎・萼・苞に細かい毛有
11	オトコヨウヅメ	ガマズミ科	ガマズミ属	落葉低木 日本固有種 山地の日当たりの良い林縁に生育 葉(対生 粗い鋸歯 紅葉するが乾くと黒くなる特性 葉柄に毛有) 花(散房花序 白色) 果実(赤い球形で垂れ下がる)
12	コバノガマズミ	ガマズミ科	ガマズミ属	落葉低木 日本固有種 ガマズミより葉が小さいことからの名 葉(鋸歯が目立つ 葉柄が短く托葉あり 表面に突起あり) 花(雌雄同株 白色の散房花序) 果実(赤色) 六甲山系では全山系でよく見られる とくにアカマツ林に多い
13	コカンスゲ	カヤツリグサ科	スゲ属	多年草 山地の多湿な林床に生え集団を作る 日本固有種 葉(細くて硬い 強くざらつく) 花(3稜形の花茎を30~60cmのばす)
14	ササノハスゲ	カヤツリグサ科	スゲ属	常緑多年草 日本固有種 近畿以西と四国の山地の林床に生育 草丈20~30cm 根茎(匍匐) 葉(縦のしわがある線形 無毛) 小穂(4~5mmの球形)
15	ヨシノアザミ	キク科	アザミ属	多年草 草丈1~2m 日本固有種 日当たりの良い山野に生育 葉(羽状で深裂 鋭い棘あり) 花(淡赤紫色) 和名は発見者吉野善介氏の名に由来 六甲山では山麓~山上まで普通にみられる
16	サジガクビソウ	キク科	ガクビソウ属	多年草 草丈25~50cm 全体に立った毛が多い 葉(さじ形の根生葉 茎葉) 花(キセルの様な緑白色の花 ガクビソウは黄色)
17	スハマソウ	キンポウゲ科	スハマソウ属	常緑多年草 草丈10~15cm 日本固有種 和名(洲浜草)は葉先が丸く海辺の洲の形に似ていることからの名 葉(根生 3浅裂 光沢無し 全縁) 花(萼6~10個が見える) 茎葉(萼片のすぐ下に萼に見える茎葉が3個つく)
18	クロモジ	クスノキ科	クロモジ属	落葉低木 低山や疎林の斜面に自生 葉・樹皮・木部共に強い揮発性の芳香あり 葉(枝先にまとまるが互生 葉柄赤味を帯びる) 花(雌雄異株 葉の展開と同時に黄緑色の花が開花) 薬用・爪楊枝・精油
19	アキグミ	グミ科	グミ属	落葉低木 日当たりの良い河原や林道沿いに群生 葉(互生 裏と葉柄は銀白色の鱗片に覆われる) 花(葉の付け根に数個ずつつく) 果実(球形に近く赤色 タンニンが多いので渋い) 根粒菌により窒素固定できるので荒地でも育つ 薬用
20	ツルグミ	グミ科	グミ属	つる性低木 つるの細い枝を長く伸ばしことからの名 完全なつる性ではなく他の樹に寄りかかって育つ 葉(互生 表光沢のある緑色 裏は赤褐色) 花(淡褐色 数個垂れ下がる 萼・花柄に赤褐色の毛が密生)
21	フサフジウツギ	ゴマノハグサ科	フジウツギ属	落葉低木 中国原産の栽培種が逸脱? 日本で見られるフジウツギ属の中では最も大型 葉(裏面星状毛が密生) 花(紫・ピンク・白色花冠の先4裂 基部は長筒部で星状毛あり) 園芸品種名ブツレア
22	タチツボスミレ	スミレ科	スミレ属	多年草 草丈5~20cm 葉(根生葉も茎葉もハート形 艶無し) 花(薄紫色の花弁に濃紫色の筋 うつむいて咲く) 日本で最もよく見られるスミレ

23	ナガバノタチツボスミレ	スミレ科	スミレ属	多年草 草丈10~20cm タチツボスミレに似て立ち上がる茎に出る葉が細長いことから名 葉(根出葉は円心形 茎葉は細長い) 花(淡紫色)
24	イタドリ	タデ科	ソバカズラ属	多年草 草丈1.5m 東南アジア原産 至る所で群生 茎(太くて中空で竹の様) 花(雌雄異株 白色) 種(薄いハネが付いている) 世界の侵略的外来種ワースト100 食用・薬用
25	シロバナウンゼンツツジ	ツツジ科	ツツジ属	半常緑低木 枝(非常に細くよく分枝する) 葉(互生) 花(10mm1個 漏斗形 六甲山系のは花が白色で上弁に濃紅色の斑点) 六甲山では標高300m以上の斜面に広く生育
26	ベニドウダン	ツツジ科	ドウダンツツジ属	落葉低木 日本固有種 西日本の山地の岩尾根に多い 葉(枝先に集まるが互生) 花(初夏 濃紅色の色釣鐘型 まとまって枝先に垂れ下がる) 果実(上向き) 六甲山系では中腹以上で見られる
27	ネジキ	ツツジ科	ネジキ属	落葉低木 幹(縦の裂け目がらせん状に捻じれる) 枝(若枝は赤味を帯びて美しい) 葉(互生 有毒) 花(下向きに小さなつぼ形の白花)
28	ツルウメモドキ	ニシキギ科	ツルウメモドキ属	落葉つる性木本 和名は蔓になるウメモドキ(モチノキ科) 日当たりの良い林に生育 つる(右巻き) 葉(互生 ウメモドキに似る 無毛 秋に黄葉) 花(雌雄異株 黄緑色の5弁花) 果実(鮮やかな橙赤色)
29	ツリバナ	ニシキギ科	ニシキギ属	落葉低木 長い花柄にぶら下がって花を付けることから名 花(1cm程の5弁花 マユミは4弁花 中央の緑色の花盤が特徴) 果実(球形 朱色 熟すと果皮が5裂し5つの種子が顔を出す)
30	ウラジロノキ	バラ科	アズキナン属	落葉高木 日本産の木の中で最も葉の裏が白いことから名 葉(互生 短枝に束生 表面は濃緑色 裏面毛が密生 重鋸歯 8~11対の側脈が目立つ 葉柄に綿毛密生) 花(白色の5弁小花が半球状に付く) 果実(赤色 生食可) 六甲山系では至る所で見られる
31	カマツカ	バラ科	カマツカ属	落葉小高木 株立ちで成長遅い 別名ウシゴロシ 材(丈夫で弾力有り) 葉(長枝では互生 短枝では輪生 細鋸歯あり) 花(白色5弁花 枝先の先端に20輪程集まって付く) 実(赤く熟し小さいリンゴの様) 染料・薬用
32	ナガバノモミジイチゴ	バラ科	キイチゴ属	落葉低木 茎(棘多い) 葉(互生 掌状に3~5裂 変異が多い) 花(白い5弁花 単独で枝先に下向きに付く) 果実(黄橙色 生食可)
33	キンミズヒキ	バラ科	キンミズヒキ属	多年草 草丈0.3~1.5m 「金水引」細長い黄色の花穂を水引に例えたことから名 全体に粗毛が密生 葉(奇数羽状複葉 托葉あり) 花(黄色の5弁花) 果実(引っ付き虫) 山菜・生薬 ミズヒキはタデ科
34	コゴメウツギ	バラ科	コゴメウツギ属	落葉低木 林縁に自生 株立ち 若い枝(赤い) 葉(互生 先端尾状に尖る 軟毛あり 重鋸歯 モミジイチゴに似る) 花(多数の5mm程の黄白色の5弁花)
35	ウラジロガシ	ブナ科	コナラ属	常緑高木 葉の裏側が白いことから名 温暖湿潤な環境に生育 葉(互生 葉縁は波打つ 鋸歯・葉の先端は尾状に伸びて鋭く尖る) 花(雌雄同株) どんぐり(2年かかる) 六甲山系では海拔300~800mの小葉自然林に生育
37	コナラ	ブナ科	コナラ属	落葉高木 大櫓(別名ミズナラ)と比較して葉とどんぐりが小さいことからの名 樹皮(黒褐色 縦に深い裂け目) 葉(互生 有柄 葉先に近い方が葉の幅が広い 尖った鋸歯あり) 花(雌雄同株) どんぐり(1年で熟す) 春に落葉する かつては里山の代表樹
38	イヌブナ	ブナ科	ブナ属	落葉高木 ブナに似るが材質が劣ることからの名 別名: 樹皮の色からクロブナ 葉(互生 側脈10~14本 裏灰白色 ブナより葉が大きい 新葉は毛で覆われる 波状の鋭い鋸歯) 花(雌雄同株) 果実(長めの柄で垂れ下がる) 株立ち 太平洋側に分布 六甲山ではブナより標高の低い所(600m)に生育
38	ブナ	ブナ科	ブナ属	落葉高木 「六甲山に現在130個体。紅葉谷の周辺に最もまとまって生育しており極楽茶屋跡の南に広がる斜面や山頂周辺にも点在。最大樹高20m 最大胸高直径は86.6cm 樹高10m以上の個体が大半を占めており、樹高が2mに満たない個体は4個体のみ。六甲山におけるブナの個体数が僅かであること、実生や稚樹がほとんど生育していないことから六甲山では自然状態でブナ林が復元する可能性は低いと推測された」(【六甲山に生育するブナの分布位置と個体サイズ】2005年武田先生はじめ他諸先生たちが行われた調査資料からの抜粋)
39	モミ	マツ科	モミ属	常緑針葉樹 日本特産種 太平洋側に分布 樹形(端正な円錐形) 樹皮(灰色で鱗状に裂ける) 葉(らせん状に互生 先端が2つに割れる) 花(雌雄同株) 菌根を形成しキノコ(アカモミタケ)が発生 典型的な陰樹
40	シキミ	マツブサ科	シキミ属	常緑小高木 別名が多い 葉(枝先に集まる 濃緑色 光沢あり 無毛 厚く革質 傷つけると抹香の匂いがする) 花(白色) 果実(トウシキミの八角に似る) 全草有毒 仏事(神事はサカキ 両方はヒサカキ)
41	ツルシキミ	ミカン科	ミヤマシキミ属	常緑低木 樹高30~100cm ミヤマシキミが日本海側の多雪地帯に適応した変種 ブナ林の林床に見られる 枝(しなる) 葉(互生 濃緑色 光沢あり) 花(雌雄異株 白色4弁花) 果実(赤色 球形) 全草有毒

42	イタヤカエデ	ムクロジ科	カエデ属	落葉高木 葉(対生 掌状に浅く裂ける大きな葉 無毛 鋸歯無し 春の展開期に赤味を帯びる 黄葉) 花(雌雄同株 枝先に淡黄色の小花) カエデ糖・材 六甲山紅葉谷では大木が見られる
43	イロハモミジ	ムクロジ科	カエデ属	落葉高木 紅葉の代表種 多くの別名あり 植物学ではカエデとモミジは区別なし 葉(対生) 花(雌雄同株 深紅の小花が垂れ下がる)
44	ウリカエデ	ムクロジ科	カエデ属	落葉小高木 日本固有種 樹皮(青緑色を帯び縦に濃緑色の筋が入る) 葉(対生 重鋸歯) 花(10個程垂れ下がる) 裏六甲の全般と表六甲の海拔300m以上に広く見られる
45	ウリハダカエデ	ムクロジ科	カエデ属	落葉小高木 樹皮が緑色で黒色の縞模様がマクワウリの果皮に似ることからの名 日本固有種 日当たりの良いやや湿気のある山地に自生 葉(対生 径12cm 裂け目が浅い) 花(黄緑色の小花が十数個ぶら下がる) 食用・材
46	コハウチカエデ	ムクロジ科	カエデ属	落葉高木 日本固有種 葉の形が天狗のハウチワからの名 葉(切れ込みがイロハモミジより浅く丸みを帯びる 葉柄・葉裏の脈上に毛有) 花(クリーム色)・ハウチワカエデは六甲山では確認無し 表六甲では海拔350m以上に裏六甲では500m以上に分布
47	チドリノキ	ムクロジ科	カエデ属	落葉高木 日本固有種 別名ヤマシバカエデ 山地の沢沿い 実の翼は直角に開きこれがチドリの飛ぶ姿に似ることからの名 葉(対生 葉に裂け目が無く多数の側脈ありクマシデに似る 春先まで枝に残る) 花(雌雄異株 淡黄色) 果実(プロペラ状) 六甲では裏六甲の沢筋に生育
48	ヒサカキ	モッコク科	ヒサカキ属	常緑小高木 中国原産 サカキに比べて小さいことから姫サカキという名 葉(互生 丸い鋸歯 サカキは鋸歯なし) 花(雌雄異株 白色つぼ型の花が下向きにつく) 果実(黒紫色) 防火性・耐潮性あり

シダ植物門

1	オオバノイノモトソウ	イノモトソウ科	イノモトソウ属	常緑シダ植物 世界の熱帯・亜熱帯域に広く分布 日本では山間で普通にみられる 葉(1回羽状複葉の栄養葉 胞子葉)
2	オオイタチシダ	オシダ科	オシダ属	常緑性シダ植物 草丈60~90cm 里山や山地の林縁や斜面に生育 変異が多いシダ 葉(羽状複葉 厚くて硬い 最下の羽片が最も大きい)
3	リョウメンメンシダ	オシダ科	カナワラビ属	常緑多年草 「両面」シダで、葉の表と裏の葉質が似ることからの名 標高が高くやや湿った場所を好み群生 葉(黄緑色~明るい緑色 3回羽状複葉)
3	シシガシラ	シシガシラ科	ヒリュウシダ属	常緑シダ植物 中心から広がる葉が獅子のたてがみのよう 葉(開平する栄養葉 直立する胞子葉)
4	シノブ	シノブ科	シノブ属	常緑シダ植物 樹皮上に生育する着生植物 葉(3~4回羽状複葉) 和歌に登場
5	タチシノブ	ホウライシダ科	タチシノブ属	常緑シダ植物 草丈30~60cm 日当たりの良い山麓・林縁に生育 葉(3~4回羽状複葉 栄養葉 胞子葉 鮮やかな緑色で艶あり) シノブに葉の様子が似て地上から葉を立てることからの名

ウリハダカエデとウリカエデの違い

ウリハダカエデ：落葉高木 花(4~5月10~15個) 葉の裏(毛が多い) 果翼(やや閉じる) 生育場所(やや湿り気のある谷や斜面)
ウリカエデ：落葉小高木 花(4~5月10個前後) 葉の裏(無毛) 果翼(ほぼ水平) 生育場所(やや乾燥する尾根・斜面または谷部)

カエデ属の主な特徴：①葉の形ではなく、プロペラの様な翼を持った実をつける ②葉が対生となる

コガクウツギに似た木：アジサイ科アジサイ属のガクウツギ・ガクアジサイ・ヤマアジサイ・アジサイ
ガマズミ科ガマズミ属のヤマデマリ

グミの仲間：ナワシログミ・ナツグミ・アキグミ・トウグミ・ダイオウグミ・ツルグミ



ガクウツギ



ガクアジサイ



ヤマアジサイ



ヤマデマリ



コガクウツギ



①アキグミ



②イロハモミジ



③イロハモミジ



④イロハモミジ



⑤イロハモミジ



⑥ウリカエデ



⑦オトコヨウゾメ



⑧カマカツ



⑨キンミズヒキ



⑩キンミズヒキ



⑪クロモジ



⑫コガクウツギ



⑬コゴメウツギ



⑭コハウチワカエデ



⑮コハウチワカエデ



⑩コバノガマズミ



⑪スハマソウ



⑫タチシノブ



⑬チドリノキ



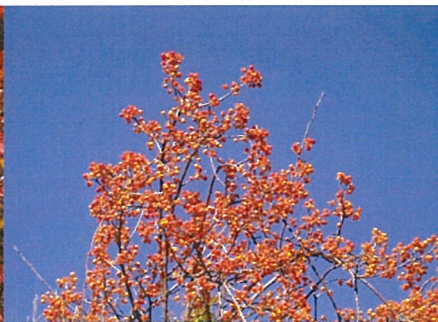
⑭ツリバナ



⑮ツリバナ



⑯ツリバナ



⑰ツルウメモドキ



⑱ツルグルミ



⑲ツルシキミ



⑳ベニドウダン



㉑ヤブムラサキ



㉒ミヤコアオイ



㉓ミヤコカタバミ



㉔オオバイノモトソウ



紅葉谷入口近くのブナ林
樹齢100年位の樹も多い

六甲のブナは昔若い時に切られたので株立ちに生長（普通はブナは株立ちにならない）



六甲ケーブル下駅→六甲山上駅





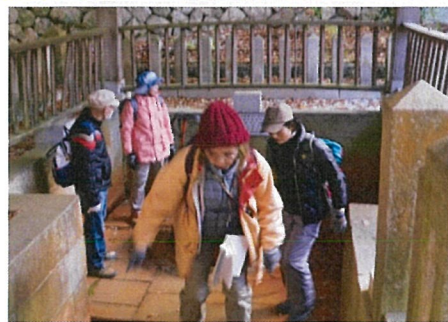
六甲山頂



六甲有馬ロープウェイ駅山上駅



紅葉谷入口



← ↑ 炭酸泉源



ロープウェイ →



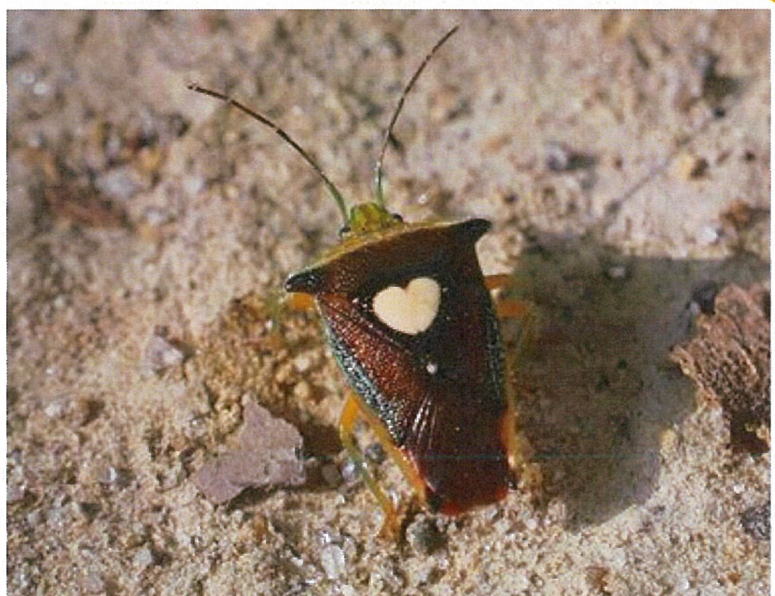
↑ 念仏寺 神戸七福神(寿老人)





武田先生のFacebookより

「エサキモンキツノカメムシ。
背中のハートマークが素晴らしい。
吹田市紫金山公園にて。」



【武田先生と里山を歩こう会】 活動報告 記録；太田由紀子

テーマと行先	鶴見緑地公園での観察 2024年度のスケジュール検討 参加13名（武田先生、大野先生含む）
実施日・天気	2024年2月2日金曜日（曇り）
コースの概要	集合；地下鉄 鶴見緑地駅 10時30分 →鶴見緑地公園で観察→咲くやこの花館見学→公園内 で来年度予定を検討 解散；15時鶴見緑地公園

2月2日集合時刻の大阪の気温は約5℃と寒い中、鶴見緑地公園に13名が集合しました。人影もまばらな公園ですが、先生の樹木の説明を皆さん熱心に聞いて寒さもあまり感じなかったようです。

冬枯れの公園であまり草花は見られなかったですが、梅や蠟梅の花が咲いて春の香りを感じます。大池のほとりのベンチで昼食をとると、池には多くの野鳥が見られアオサギが人を恐れず、悠々と歩いていました。

午後は暖かい『咲くやこの花館』に入館して極彩色のランや珍しいサボテン、熱帯植物にしばし冬であることを忘れるようでした。『咲くやこの花館』のカフェで来年度のスケジュールを検討しましたが、来年度も楽しい計画がありそうです。

寒い中にも春を感じる1日でした。

観察した植物

ケヤキ	葉は枝ごと落ちる
クロガネモチ	赤い実がなっていた
アキニレ (写真1)	乾燥した土地に多い 幹がガサガサ
トウネズミモチ	実は丸い (ネズミモチはネズミの糞の形)
ヒガンバナ	葉だけ残ったヒガンバナの球根は鱗茎の澱粉を毒ぬきして救荒作物として食べられた
ウメ (写真2)	花が咲いていた
ユズリハ	春になって若葉がのびると、古い葉は若葉に譲るように散ることが名前の由来
センダン	薄い黄色の実が沢山ついていた
オカメザサ (写真3)	竹の仲間、メダケは笹
エノキ	樹皮は横に皺が寄る
シダレエンジュ	中国では出世につながる縁起の良い木といわれる
ロウバイ (写真5)	ろう細工のような黄色の花が咲いていた
モチノキ	樹皮から鳥もちを作っていた
シイ	葉の裏が金色に見える。どんぐりが落ちていた。
アメリカフウ	いがぐりのような実が落ちていた
ナギ (写真4)	広葉樹のような広い葉だが、針葉樹である 葉は横に割けないが縦に割ける
クヌギ	冬に枯れても葉が落ちない

タイサンボク

テカテカと光る大型の葉



1 アキニレ



2 ウメ



3 オカメザサ



4 ナギ



5 ロウバイ



アオサギ



2024.2.2鶴見緑地

パロボラッチョ 1 別名ケイバ・インシグニス (写真⑳)	アオイ科	ケイバ属	落葉高木 トックリキワタの仲間 パロボラッチョとは現地語で酔い どれの木という意味(幹がトックリ状に肥大することから) 南米 コロンビア〜アルゼンチンに自生 幹(淡黄緑色 スベキオサよりよ り太りやすい体質 咲くやこの花館の木の直径は1.5m) 花(黄色 径10cm 冬の夕刻に咲く)
トックリキワタ 2 別名ケイバ・スベキオサ (写 真㉔㉕㉖㉗)	アオイ科	セイバ属	落葉高木 南アメリカ原産 樹皮(若木では緑色で棘が密に 成木は褐 色変わりトックリ状に膨らむがあまり太くならない) 葉 (掌状複葉) 花(ピンク色の5弁花 開花10~12月) 実 (10~15cmの楕円形 熟すと中に詰まっている綿が飛び出す その綿 に200個前後の黒い種子がある) 綿は座布団・クッションの詰め物に
3 エノキ	アサ科	エノキ属	落葉高木 丸い樹形 大きな日陰を作る 葉(互生 先半分だけに鋸 歯) 花(雌雄同株) 果実(緑・赤・黄色とカラフル) 国 蝶オオムラサキ・ゴマダラチョウ・テングチョウ・など多くの食草 一里塚・御神木 ムクノキもアサ科
4 スエコザサ (写真㉙)	イネ科	アズマザサ属	常緑多年生の笹(皮が長期間痺に残る) 本州の宮城県以北に自生 高 さ1~2m 葉(表面に白い毛 緑が葉の半分裏側に巻き込む) 牧野富 太郎と妻寿衛子
5 オカメザサ (写真⑤)	イネ科	オカメザサ属	常緑タケ類 日本で最も背丈が低いタケ類(新芽にある鞘がすぐに剥が れるのがタケの特徴) 1属1種の日本特産品(オカメザサ属は本種のみ) 高さ1~2m 葉(後から出る葉ほど大きくなる)
6 メダケ	イネ科	メダケ属	多年草 常緑笹 湿気を好む 稈(高さ2~8m) 筍皮(落ちずに残る) 葉 (互生 枝先のみ) 花(数年周期で咲く) 筍(食用にならずニガタケ という)
7 キソウテンガイ (㉚㉛㉜)	ウエルウィッチア科	ウエルウィッチア属	1科1属1種の裸子植物 アフリカのナブミ砂漠に自生 高さ1.5m 径8m 1対のみの葉を伸ばし続ける特異な生態 雌雄異株 数 十年に1度の大雨の年以外はほとんどの種子は発芽できないので毎年種 を作り続けている 寿命は2000年以上「生きている化石」 咲くや この花館の雄株はベルリン植物園に次いで大きい株とされている
8 ウツボカズラ (写真㉝)	ウツボカズラ科	ウツボカズラ属	常緑つる性植物で食虫植物 ボルネオ・スマトラ・マレー半島などで 自生する熱帯植物 草丈10~200cm 茎(白い面毛が密生) 昆虫 を捕食することで窒素などの栄養素が乏しい土壌でも繁殖する能力 を獲得 日本には1902年渡来
9 アリストロキア (写真⑱㉞)	ウmanoszukusaco	ウmanoszukusaco	つる性植物 ブラジル原産 世界中に約350種以上 ア リストロキアはギリシャ語で「最良の安産」という意味 花(独 特な香りで虫をおびき寄せ受粉させる 花びらに見えるのは大きな30 cm程の萼)
10 マッソニア (写真㉟)	キジカクシ科	マッソニア属	多年草球根多肉植物 北アフリカ原産 葉 (地際に広がる2枚の葉 楕円形 表面突起あり) 花(葉の中心からイ ソギンチャクの触手のような花を出す) 暑い夏 が近づくと葉を落として休眠、秋頃に新たな芽を展開、12月頃に次々 と開花が始まる
11 ヤマコウバシ	クスノキ科	クロモジ属	落葉低木 葉をちぎったり枝を折ると良い香りがすることからの名 雌雄異株だが日本には雌株のみ(雄株は中国大陸しか存在しない ソメ イヨシノと同じくクローン) 葉 (互生 葉柄短い 冬も枯葉が枝に残る 受験生のお守り) 花(黄 色の小花) 果実(クスノキと同じような黒い実)
12 オオオニバス (⑬⑭)	スイレン科	オオオニバス属	多年生水生植物 南米アマゾン川流域に生育 巨大な浮遊葉(円心形 径1.5~2m 葉縁が10~15cm立ち上がる 葉柄に棘 緑は赤紫色・緑色 裏は葉脈が格子状に隆起して棘が生える 葉の寿命は30日程) 花 (径30cm 夕方白色で翌日ピンク色に 萼片・子房・花柄に棘あり) 果実(楕円形 棘あり) ガイアナ共同共和国の国花
13 スイレン (写真⑲)	スイレン科	スイレン属	浮葉性多年生水生植物 世界中に50種ほど分布 温帯 日本にはヒツジゲサ1種のみが自生 スイレンと熱帯スイレンがある
14 センダン	センダン科	センダン属	落葉高木 ヒマラヤ原産 成長が早い 温暖な地域の海岸近くや森林 辺縁に自生 葉(互生 奇数羽状複葉) 花(淡紫色の5弁花) 果実 (落葉した梢に黄褐色で長くぶら下がる ヒヨドリ・カラスが食べる 有毒のサボニン含有なので人・犬は注意が必要) 生薬・虫 よけ・琵琶の胴・古典文学に登場
15 キンチャカ (写真㉡)	ツバキ科	ツバキ属	常緑低木 中国南部〜ベトナムに分布 1979年日本に渡来 葉 (星長い 脈がくっきり) 花(鮮やかな黄色 芳香あり)
16 アキニレ (写真①)	ニレ科	ニレ属	落葉高木 初冬に花が咲き晩秋に実が付く ケヤキに樹形・樹皮に似 る 水辺を好む 葉(互生 2~6cm ケヤキよりも肉厚でやや艶あり 二重鋸歯) 花(淡黄色の小さな両性花が束生 風媒花) 果実(翼 果) 西日本の湿潤な土地を好む
17 ケヤキ (写真⑥)	ニレ科	ケヤキ属	落葉高木 美しい樹形 樹皮(老木はまだら模様) 葉 (互生 ざらつく 3~10cm 鋸歯は鋭く曲線的に葉先に向かう特徴) 花 (雌雄同株 黄緑色) 果実(5mm程で10~15cmの小枝ごと遠くに運ばれ て分布を広げる)

18	ウメ (写真②③④)	バラ科	サクラ属	落葉中高木 中国原産 多数の園芸品種(花ウメ・実ウメ) 花(葉に先立って咲かせる 良い香り有り 5弁花 桃と同じく花柄は短い) 葉(互生) 果(3~4年で結実 食用・薬用) 万葉集の頃は白梅・平安時代は紅梅が 万葉集には百首以上詠まれていて「萩」に次いで多い
19	モモ	バラ科	サクラ属	落葉中高木 中国原産 多数の園芸品種(ハナモモ・ミモモ) 葉(互生) 花(花と葉が同時に展開 香りはしない ウメ・サクラより大きい5弁花 花柄短い) 古くから邪悪なものを退ける霊的なものと信じられている
20	キルタンツス・エラツス (写真⑤)	ヒガンバナ科	キルタンツス属	球根性常緑多年草 草丈30~40cm 南アフリカ原産 鱗茎(径3~5cm 黒褐色の膜に包まれている) 葉(帯状 6~8枚根出) 花(4~5個 6花弁の鮮赤色) 果実(蒴果 種子に翼あり)
21	ヒガンバナ	ヒガンバナ科	ヒガンバナ属	多年草の球根植物 草丈30~60cm 中国原産 別名1000個あり 湿った場所に生育 花(葉よりも先に花茎をだし真っ赤な6弁花を咲かす) 葉(線形 ロゼット状で越冬 秋の終わりに葉が伸びて初夏に枯らす) 球根(有毒 救荒植物として鱗茎のデンプンを毒抜きして食べた モグラなどの害獣対策に畦に植えた) 日本のは種子を作らず分球して繁殖 シロバナマンジュシャゲ(白花・雑種)・ショウキズイセン(黄色花)・モモイロヒガンバナ(ピンク)
22	アメリカカフウ	フウ科	フウ属	落葉高木 北米原産(日本には大正時代に渡来) 別名モミジバフウ 葉(互生 モミジのように5~7裂する 美しく紅葉) 花(雌雄同株) 果実(径3cmでぶら下がる 堅い 鋭い棘)
23	クスギ	ブナ科	コナラ属	落葉大高木 雑木林を構成する代表的な樹種 伐採による更新で株立ちが多い 樹皮(ゴツゴツした印象) 葉(針状の鋸歯 クリに似る) アベマキ・コナラと同じく離層が形成されないため冬も枝から落ちない) 花(雌雄異株 風媒花) 果実(2年かかる) 虫の集まる木(カブトムシ・クワガタなどが樹液に集まる) ヤママユガ科の幼虫の食草
24	マテバシイ	ブナ科	マテバシイ属	常緑高木 日本固有種 温暖な沿岸地に自生 マテバシイ属はシリブカガの2種のみ 葉(互生 全緑 厚い皮質 裏は鱗毛あり) 花(雌雄同株 クリのような匂い) 果実(ドングリ 約2年かかる 生食可)
25	ナギ (写真⑦)	マキ科	ナギ属	常緑高木 葉は広くて被子植物のようだが針葉樹 暖地性 葉(十字対生 厚く革質 並行脈 縦には簡単に裂けるが横にはなかなかちぎれない) 花(雌雄異株) 神が宿る聖なる木・縁結びの木・航海の安全を司る木 生薬・油
26	シダレエンジュ	マメ科	エンジュ属	落葉高木 中国原産 出世の樹木・縁起の良い木と言われる エンジュの枝垂れ品種 独特の枝ぶり 葉(奇数羽状複葉 互生) 花(7~8月枝先に淡黄白色の蝶形の花) 果実(豆果 数珠状にくびれる) 漢方
27	カリアンドラ (⑬⑭⑮)	マメ科	カリアンドラ属	常緑低木 ボリビア原産 世界中に約200種 カリアンドラはギリシャ語で「美しい雄蕊」という意味 葉(2回偶数羽状複葉) 花(ネムノキに似た径5~7cmの白色・緋紅色の花を付ける)
28	アメリカデイゴ	マメ科	デイゴ属	落葉低木 ブラジル原産 江戸時代に渡来 寒さを嫌う 葉(3出複葉 互生 主脈・葉柄・枝に棘あり) 花(6~9月蝶形の赤い花を下向きに咲かす) 豆果(10~15cm)
29	ブラジルデイゴ (⑳㉑)	マメ科	デイゴ属	落葉小高木 ブラジル原産の栽培種 幹(コルク質 大きな棘あり) 葉(互生 3出複葉 脈上に棘あり) 花(パンシル形で開花しない)
30	ミズオジギソウ (写真⑳)	マメ科	ミズオジギソウ属	多年草水生植物 熱帯アジア・アフリカ・南米に自生 オジギソウのように刺激すると葉を閉じることからの名 茎(白い海綿状の組織が発達して浮遊する) 葉(2回羽状複葉 刺激に対する反応はオジギソウ程敏感では無い) 花(黄色) 豆果 食用(若い茎・葉) オジギソウは茎に棘が有り花はピンク色
31	サンシュユ	ミズキ科	ミズキ属	落葉小高木 中国原産 別名ハルコガネバナ(春黄金花)・アキサソコ(グミの様な赤い実を枝一面につけるので) 樹皮(リョウブのように剥がれ落ちる) 葉(互生 ハナミズキに似た) 花(若葉に先立って開花 鮮黄色の小花) 果実(ピタミンCが豊富) 生薬・果実酒・ジャム
32	ムジナモ (写真㉒)	モウセンゴケ科	ムジナモ属	多年生浮遊性水生植物 1属1種の食虫植物 根(通常なし) 葉(二枚貝のような捕虫器官でミジンコなどを捕食 茎を中心に放射状に輪生するので円柱のように見える) 花(水温が30度を超えると花茎を出し稀に白色の小さな花を付ける) 1890年牧野富太郎発見 絶滅危惧IA類
33	トウネズミモチ	モクセイ科	イボタノキ属	常緑高木 中国南部原産 葉(楕円形 厚く光沢あり ネズミモチより大きい 葉脈が透けて見える) 花(枝先に円錐形の黄白色の花序を出す) 果実(紫黒色 ネズミモチに比べると大きくやや球形) 生垣・生薬 要注意外来植物
34	タイサンボク	モクレン科	モクレン属	常緑高木 葉(互生 長楕円形 濃緑色 光沢あり 裏面は褐色の毛が密生) 花(大きな盞形で上向きに咲く 9弁花 強い芳香)

35	クロガネモチ	モチノキ科	モチノキ属	常緑中高木 若い枝や葉柄が黒いことからの名 暖地から亜熱帯の山野に生育 かつてはトリモチと同様に鳥もちを採った 葉(互生 深緑色 革質 全縁 葉の付け根・軸が紫ががる) 花(雌雄異株 淡紫色・白色の小さな花) 果実(雌株に真っ赤に付く)
36	モチノキ	モチノキ科	モチノキ属	常緑高木 樹皮から鳥もちが採れることからの名 暖地の山野・海辺に自生 葉(互生 革質 濃緑色 水分を多く含む 葉の付け根・軸が黄緑色) 花(雌雄異株 黄緑色の小花) 果実(赤色)
37	ユズリハ	ユズリハ科	ユズリハ属	常緑中高木 和名は春に若葉が枝先に出た後に前年の葉が譲るように落葉することから 暖地の山地に自生 こんもりとした樹形 葉(互生 垂れ下がる 枝先にらせん状に集まる 葉柄は赤紫色) 花(雌雄異株 黄緑色) 果実(有毒) 縁起木・薬用
38	コチョウラン (写真⑳)	ラン科	コチョウラン属	多年生着生植物 草丈10~100cm 単軸性のラン 高温多湿好む 東アジアに分布 葉(二列性の大きな平たい)
39	ロウバイ (写真㉑㉒㉓㉔)	ロウバイ科	ロウバイ属	落葉低木 株立ち 葉(対生 長楕円形 ザラザラ) 花(蠟細工の様な淡黄色 香りが高くやや下向く 花の中心は暗紫色でその周囲が黄色) 果実(こげ茶色のユニークな形 中の種はアズキ位 簡単に育てられる) ソシンロウバイ(花被全体が黄色) 有毒・薬用

香木の栴檀はインドネシア原産のビャクダンの事を指す 「栴檀は双葉より芳(かんば)しい」(栴檀は苗の段階から良い香りがするように才覚のある人物は幼少時からそれを発揮するという意味)という諺はビャクダンのこと

動物界鳥綱

39	キンクロハジロ (写真㉕)	カモ科	ハジロ属	全長44cm 冬鳥 金色の目・黒い体・白い翼帯・頭に長いかざり羽 潜水採餌カモ(シジミなどの貝類を主食)
40	オオバン (写真㉖)	クイナ科	オオバン属	全長39cm 水鳥 バンより大型で泳ぎが上手い 頭をフリフリ泳ぐ 白い頬と薄黄色のくちばしを持つ真っ黒い鳥 餌は水生植物
41	アオサギ (写真㉗㉘㉙)	サギ科	アオサギ属	全長93cm 留鳥 日本で繁殖する最大のサギ 青みがかった灰色の毛で被われていることからの名 集まって繁殖する 普通は単独で生活 一夫一妻制 魚類・両生類・昆虫類など採餌
42	シジュウカラ (写真㉚)	シジュウカラ科	シジュウカラ属	全長14.5cm 留鳥 白い頬と黒いネクタイ模様 京都大学鈴木さんが言葉を繰る能力が科学的に証明した(詳しくはNHK「ダーウィンが来た!」「ワイルドライフ」に)
43	マガモ (写真㉛)	カモ科	マガモ属	全長59cm 漂鳥 カモの代表種 本種を改良したものがアヒル 頭部は光沢のある緑色 餌は水生植物・貝 繁殖期を終えたオスガモは目立たないように冬の求愛の季節までメスのような地味な模様に変える

昆虫綱カメムシ目

43	オオワラジカイガラムシ (写真㉜㉝)	ワタフキカイガラムシ科	?	大きさ♂5mm ♀8~10mm 害虫 ♀(わらじ型 褐色で白粉に覆われる) ♂(赤味を帯びた黒褐色で黒い翅あり) アリ類と共生関係 天敵はベニヘリテントウ カシ類・シイ類・ケヤキに付く
----	--------------------	-------------	---	--



㉜オオワラジカイガラムシの雄(左)と雌(右)



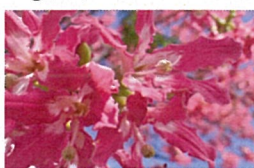
㉚シジュウカラ



㉕キンクロハジロ



㉑トックリキワタの花



↑ ㉗



← ㉘



㉓トックリキワタの果実と綿

2024.02.02 鶴見緑地

①

注 W:ウィキペディアより

ケヤキ: 枝ごと葉が翼 // 葉の裏
の葉
の葉

クロガネモチ 苦勞が少く
金持

◎ケヤキ

小枝についた葉が翼となって、果実がついたまま長さ10 - 15 cmの小枝ごと木から離れ、風に乗って遠く運ばれて分布を広げる。



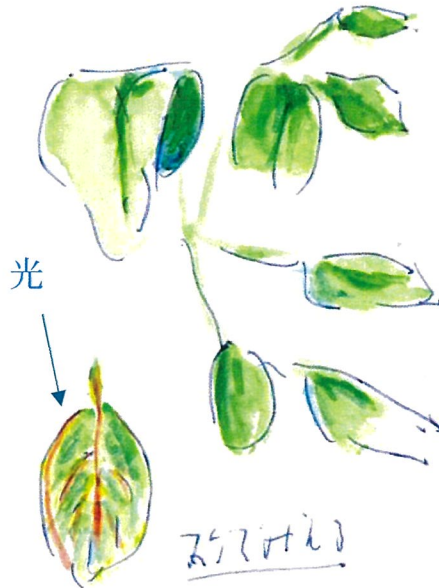
◎クロガネモチ

「クロガネモチ」が「苦勞がなく」「金持ち」に通じるから縁起木



アキニレ

トウネズミモチ



アキニレ

透かし
葉脈がみえる

◎アキニレ

(W) 和名「アキニレ」は「秋楡」と書き、これは初秋に花が咲き、晩秋に実がつくという生態の特徴からきているといわれる。「ニレ」の語源は、樹皮を剥がすとヌルヌルし、それを意味する古語「ぬれ」が転訛したものとされる。

◎トウネズミモチ

トウネズミモチの場合、葉裏を光に透かしてみると葉脈の主脈も側脈も透けて見えるが、ネズミモチの方は、主脈が見えるものの側脈は見えないので判別できる。

◎ヒガンバナ

秋の終わりに葉が伸びて翌年初夏に枯れるという、多年草としては特殊な性質を持っている。地下の鱗茎（球根）に強い毒性を有する有毒植物であるが、かつて救荒作物として鱗茎のデンプンを毒抜きして食べられていた。



ヒガンバナ

アズリハ (新しい葉はか
まはさきに
おちる)

春 (2)



ユズリハ

和名ユズリハは、春に枝先に若葉が出たあと、前年の葉がそれに譲るように落葉することに由来する。古名はユズルハ（弓弦葉）といわれ、葉の中にある主脈がはっきりと目立ち、弓の弦のように見えることに由来する。

夏はかれ
花はあつた
まはさきに
おちる



◎風車

(緑地・公式) 山のエリアは、国際花と緑の博覧会の際、53ヶ国・35国際機関から出展された55の庭園の跡地や、国内外のお客さまをおもてなした本格茶室のむらさき亭など、当時の面影が色濃く残るエリアです。また、花博閉会後に整備された、お子さまからご高齢者まで一緒に楽しめるパークゴルフ場や、自然体験観察園、**風車の丘の花壇**などがあり、多彩にお楽しみいただけます。



センジャン

◎センダン

(W) 香木の梅檀はインドネシア原産のビャクダン（ビャクダン科）のことを指し、センダンのほうは特別な香りを持たない。

(参考)

「梅檀は双葉より芳し」!

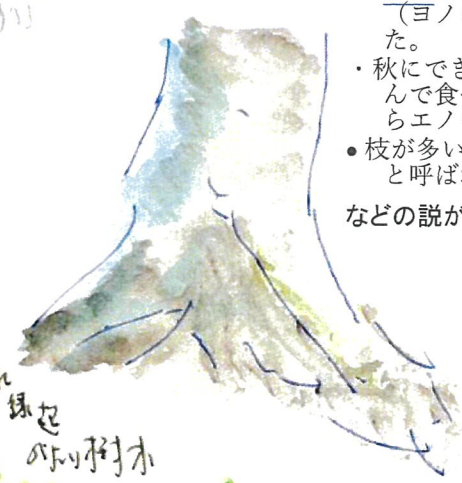
此一同じ木根が2軸花
 花は銀色の軸
 花は銀色の軸
 花は銀色の軸

エノキ

◎エノキ

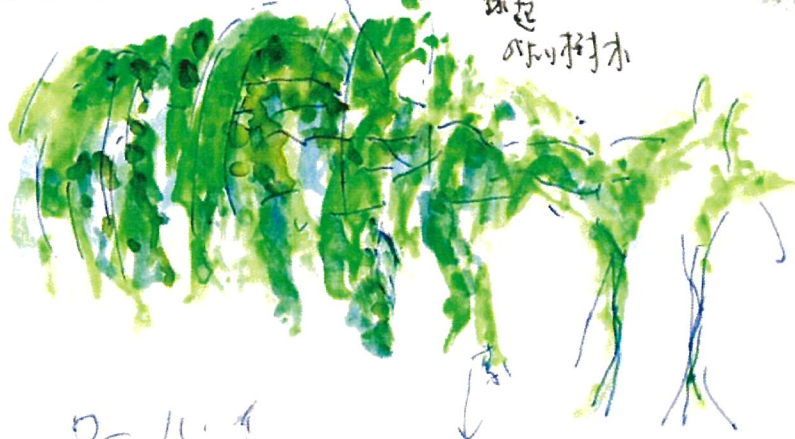
(W) 和名「エノキ」の由来については諸説あり、樹皮は灰白色から灰黒色

- 縁起の良い木を意味する「嘉樹(ヨノキ)」が転じてエノキとなった。
 - 秋にできる朱色の実は野鳥などが好んで食べることから、「餌の木」からエノキとなった説。
 - 枝が多いことから枝の木(エノキ)と呼ばれるようになった。
- などの説がある。



◎シダレエンジュ

マメ科の高木であるエンジュの変種。和名の通り、枝が枝垂れるように生長する。夏にクリーム色の花を円錐花序につけ、秋には極端な括れをもつ黄緑色の豆果をつける。冬期に伸ばした枝を剪定する際、当年に伸びた枝を少し残して切るので、数年間栽培を続けると枝が段々になり、全体では「ねじれた」ようになる。



中国では
 龍爪樹
 縁起
 好む樹木

ローバイ



◎ロウバイ

◎ロウバイ

中国原産の落葉樹
実(種)



(W) 和名の「ロウバイ」の語源は、漢名の「蠟梅」の音読みとされ、由来について一説には、陰暦の12月にあたる臘月(ろうげつ)にウメの香りの花を咲かせるためだと言われている。『本草綱目』によれば、半透明でにぶいツヤのある花びらがまるで蠟細工のようであり、かつ臘月に咲くことにちなむという。

アサカアユ

カサウリ



◎カラスウリ

(W) ウリ科の植物。花は夜間だけ開き、秋枯れが始まった雑木林の林縁などでよく目立つ朱色の果実をつける、つる性の多年草である。地下には塊根を有する。



◎モチノキ

(W) モチノキ科モチノキ属の植物の一種。別名ホンモチ、単にモチともよばれる。和名は樹皮から鳥糞(トリモチ)が採れることに由来する。

◎アメリカフウ

(W) 楓、は、フウ科]フウ属の落葉高木。北米原産で、別名アメリカフウやアメリカンゴウコウノキともよばれる。中国原産のフウのなかまで、葉がモミジのように5裂から7裂するのが特徴で、和名の由来にもなっている。



フウノキ (モミジ)

たけのこ - しかに食べられずるまは
たけのこ - しかに食べられずるまは
↑
哺乳類に

◎ナギ

針葉樹の間であるが、葉は幅広く被子植物のように見える。また奈良春日山では鹿に食べられずに残る。哺乳類に作用する毒があるともいわれている。

(W) 日本ではしばしば神社に植栽され、特に熊野権現との関わりが深い。



◎クヌギ

試験に落ちない!

(W) 紅葉後に完全な枯葉になっても離層が形成されないため枝からなかなか落ちず、冬も枝についていることがある。これは同属のカシワと同様である。



アサギ

◎アオサギ

(W) 養殖魚を食べるため、害鳥とみなされることがある。



◎シイ

(W) 果実の椎の実は、縄文時代にはクリに次いで重要な食料であったといわれている。近年では子供のおやつに用いられた。現在でも博多の放生会や八幡(北九州市)の起業祭といったお祭りでは炒った椎の実が夜店で売られている。生でも食べられるが、軽く煎って食べるが多い。紙袋に入れて電子レンジで加熱するのもよい。食べるにあたってはまず水で洗い、浮いてきた虫食いの実を捨ててから用いる。



人間に対しては他の鳥類に比べて警戒心が強く、殆どの野生の種は目が合っただけで逃げるほどであるが、観光地の一部では人慣れしている種もいる。分布が非常に広く、2019年の時点で種としては絶滅のおそれは低いと考えられている。

◎ミズオジギソウ

この植物は茎をほふくさせて繁茂し、水が多いところでは水面に茎を浮遊させてひろがります。水面の茎には白い海綿状の組織が発達し、それを浮き袋として水に浮かびます。

ナ

◎バナナ

(W) 実際には草本であり、その意味では園芸学上果物ではなく野菜（果菜。詳しくは野菜#定義）に分類される。

ナ



動く植物 ミズオジギソウ

葉のつけ根にある細胞が水を吸ってふくらんだり、しぼんだりすることによって動きます。

バグが葉を食べようとやってきました。葉をこら、閉じている葉がひらけます。

葉は種のようになりました。さわりつけると、葉のつけ根からがくんと下がります。

バグはあわててしごみつきました。こうして、自分を食べようとする敵から身をまもります。

1,178 x 819



旅人の木

◎旅人の木

(W) 名称の由来は、葉柄に雨水を溜めるため、乾燥地帯の**旅行者の飲料水供給源**として利用されたからとも、また高木は葉が東西方向へ扇状に広がることから**旅人に対するコンパスの役割**を果たすからともいうが、ともに確かな定説ではない。

ヒスイカズラ

◎ヒスイカズラ

(W) 受粉はオオコウモリにより行われる。

／花弁は翡翠色であるが、これはコピグメント効果（英語版）によるもので、色素としてマルビン・サボナリンが1:9の割合で含まれていること、表皮細胞のpHが7.9とアルカリ性に傾いていることによる。



◎カナディアンラテ

カカオとコーヒーフェア実施中！

CIRCUSCOFFEE

「サーカスコーヒーは京都の北山に店舗を持つ自家焙煎コーヒー豆の量り売り専門のお店です。サーカスコーヒーの名前の由来はCIRCUS【集う、集まる】という意味があり、「人が集まると美味しいコーヒーが飲みたくなる、美味しいコーヒーがあれば人が集まる」をコンセプトに、コーヒーでたくさんの人を繋ぐお手伝いができるらと思っております。」

(W) この科の現生種は本種のみである。アフリカのアンゴラ及びナミビアのナミブ砂漠に分布する。

1対のみの葉を伸ばし続ける特異な形態を持つ。寿命は非常に長い。個体の寿命の計測は難しいが、1000年以上生きると考えられる。いくつかの個体は2000歳を超えている可能性もある！



2024年2月2日鶴見緑地



①アキニレ

②ウメ

③ウメ



④ウメ

⑤オカメザサ

⑥ケヤキ



⑦ナギ

⑧ロウバイ

⑨ロウバイ



⑩ロウバイ

⑪ロウバイの種子

⑫ロウバイの果実



咲くやこの花館



咲くやこの花館温室



咲くやこの花館温室



⑬オオオニバス



⑭オオオニバスの裏側



⑮スイレン



⑯カリアンドラ



⑰カリアンドラ



⑱カリアンドラ



⑲アリストロキア



⑳アリストロキア



㉑ウツボカズラ



㉒キソウテンガイ



㉓キソウテンガイ雌花



㉔キソウテンガイ雄花



②⑤キンチャカ



②⑥キンチャカ



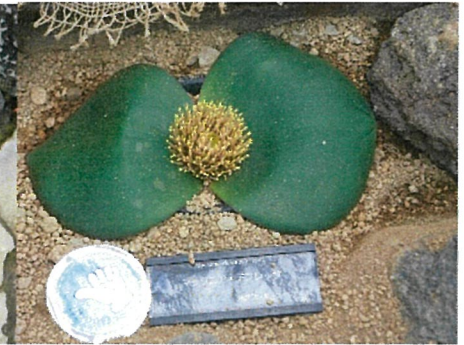
②⑦パロボラッチョ



②⑧コショウラン



②⑨スエコザサ



②⑩マッソニア



③①ブラジルディゴ



③②ブラジルディゴ



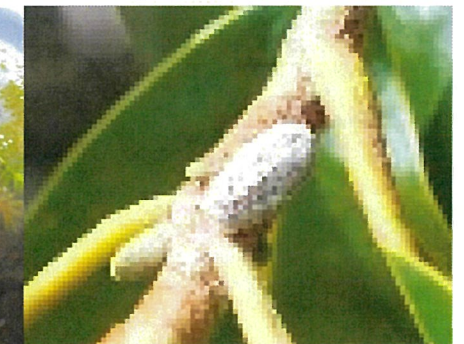
③③ミズオギギソウ



③④キルトンツス



③⑤ムジモナ



③⑥オオワラジカイガラムシ



③⑦アオサギ



③⑧アオサギ



③⑨松とアオサギ



④⑩ キンクロハジロ他



④⑪ マガモ



④⑫ オオバン



日本庭園



韓国



韓国



中国







クイズラリーを開催中!
3択クイズの答えと思う番号を○の中に入れて
右の表を完成させよう!

ウキウキクイズラリー

クイズQ1-Q8

下の枠の①~③に数字を入れて完成させてね!
終わったたり案内所に行って
答えとプレゼントをもらおう!

① ② ③

Q7 コマクサの名前の由来は、
花の形何に似ているからかな?
① 独楽(こま)の形
② くしの形
③ 馬の顔の形

Q6 フニーバオバフのふるさは、
乾燥した時(乾季)があるので、
それを乗り越えるためにある部分
水を蓄えます。どの部分かな?
① 枝
② 幹
③ 葉

Q5 成長するとどれくらいの
高さになるかな?
① 2m
② 7m
③ 15m

Q4 タビビトノキの自生地
(ふるさど)はどこかな?
① エジプト
② ケニア
③ マダガスカル

Q8 ある国の高山によく生えます。
どこ国かな?
① ニュージーランド
② フィンランド
③ アイスランド

Q1 オオオニバスには
どんな特徴があるかな?
① 朝に花が咲く
② 甘い香りがする
③ 黄色い花が咲く

Q2 パノキは
どんな味がするかな?
① パンのような味
② リンゴのような味
③ イモのような味

Q3 パナナには
どんな特徴があるかな?
① 木ではなく草である
② 実をつけた後、しばらくして
また同じ茎に実がなる
③ 種から育てることが多い

[武田先生と里山を歩こう会] 植物観察実施報告書 (2024年3月)

作成日：3月 7日

報告者：山内 和孝

- ・ 行先とテーマ： 早春のニジゲンノモリの植物観察
- ・ 実施日と気候： 2024年3月1日(金)・晴(13時の温度14度)
- ・ 行程の概要： 三宮バスターミナル・集合→(本四海峡バス)→高速舞子→高速道淡路サービスエリア(ハイウェイオアシス)→ニジゲンノモリ→ハイウェイオアシス・解散
- ・ 参加人数： 先生を含めて18人(内、体験者3人)

1、ニジゲンノモリ(淡路市楠本2425-2)の概要

ニジゲンノモリは兵庫県立淡路島公園(以下、公園)内にあります。

公園は1985年4月に開園し、その面積は約135ヘクタールになり、“くにうみ神話”に彩られたロマン豊かな淡路島、その豊かな自然に恵まれた県立の都市公園です。公園内は交流ゾーン・森のゾーン・オアシスゾーン・草原と花のゾーンに分かれています。国道、県道そして高速道淡路サービスエリアから直接アクセスできる便利な公園です。

ニジゲンノモリは“株式会社ニジゲンノモリ(本社：淡路市)”が運営する2017年7月に公園内にオープンしたアニメパークで、アニメや漫画にゲームが楽しめるところです。入園料は無料ですが、公園内に点在するアトラクションは有料で自然の中で色々なことが体験できます。ニジゲンノモリは、西エリア・中央エリア・東エリアに分かれ東エリアの“展望広場”からは明石海峡大橋や関空など大阪湾が一望できます。



2、観察の順路



板根から8分程度でニジゲンノモリの入り口に着きました。ニジゲンノモリは幅5メートル程のコンクリート道が整備され、両側には色々な樹木が植えられていました。

花の少ないこの時期に「トキワマンサク」はピンクの花を「ツバキ」は紅色の花が咲き「ウメ」は一つの木から紅白の花を咲かせていました。この「ウメ」の紅白は接ぎ木などをした痕跡がなくキメラでしょうか？

「トサミズキ」は黄色い花をぶらさげていました。しばらく歩くと「センダン」の木が黄色の球形の果実を沢山つけており、枝には小鳥が見受けられました。この「センダン」は香木のセンダンとは別物とのことでした。

道端には「アメリカフウ」のウニのような刺々しい針のついた球形の茶色い果実が沢山落ちていました。「ヤマモモ」「コブシ」も植えてあり「ヤマモモ」は雌雄異株で、この道沿いの「ヤマモモ」は雄株が多いようでした。「コブシ」の白い花は未だ先のように、白い花芽がついていました。

季節外れの梅雨模様の昨日の雨も朝からあがり、今日は観察日和の良い天候になりました。10時30分に高速道淡路サービスエリアに到着しました。淡路サービスエリア（ハイウェイオアシス）からニジゲンノモリの入り口途中で巨大な「フタバガキの板根」が展示されていました。

掲示板には、この板根は東南アジアから運ばれてきて「淡路花博」で展示した実物ですとの説明文がありました。



“昭和池”に架かる“ふれあい橋”を過ぎた辺りから自然のままの風景になってきました。「コバノミツバツツジ」「カクレミノ」「ハゼノキ」「アラカシ」など公園造成前から自生していたと思われる樹木が見られるようになりました。

植物観察も12時になり、“水の遊び場”辺りで1時間の昼食時間をとりました。目の前には超巨大な“ゴジラ”が口を開けて、私たちを威嚇しているようでした。

午後からは“昭和池”の北側を通り、東エリアにある“展望広場”に歩を進めました。道筋に同じクスノキ科の「シロダモ」と「ヤブニッケイ」が並んで植えられていました。この二つの植物は見た目が同じようですが、葉に香気があるのが「ヤブニッケイ」、ないのが「シロダモ」と区分できるようです。

“展望広場”への道は自然林の中と思われ、赤い果実をつけた「モチノキ」と「アオキ」、食用にもなる「ツワブキ」、つる性の「サネカズラ」「キヅタ」などが自生していました。

“展望広場”では大阪湾が一望出来、これらの景色を満喫し、集合写真を撮りました。

“展望広場”で30分の休息をとり、朝のスタート地点の淡路サービスエリアに下ります。下山道では「カンヒザクラ」が数本あり、釣鐘状に下を向いた濃い紫紅色の花が満開でした。今までの疲れを癒してくれました。

15時に淡路サービスエリアに全員が到着して、ハイウェイオアシスで解散しました。今日の観察コースの歩数は約1万2千歩でした。



3、観察できた主な植物（順路の順）

フタバガキ、シチヘンゲ、トキワマンサク、ラクショウ、ウメ、ボケ、トサミズキ、ツバキ、センダン、アメリカフウ、ヤマモモ、コブシ、クロガネモチ、タブノキ、クチナシ、ムクゲ、コバノミツバツツジ、ヒメユズリハ、カクレミノ、メタセコイア、ソメイヨシノ、ハゼノキ、ウバメガシ、アラカシ、シロダモ、ヤブニッケイ、モチノキ、テイカカズラ、トベラ、ツワブキ、アオキ、サネカズラ、ノグルミ、タチツボスミレ、ミゾイチゴツナギ、キヅタ、フラサバソウ、スイバ、ハイネズ、サンシュユ、ネズミモチ、イヌビワ、アケビ、マダケ、カンヒザクラ、ロウバイ。

以上

2024.3.1 ニジゲンノモリ

1	ムクゲ	アオイ科	フヨウ属	落葉低木 中国原産 平安時代に渡来 (互生 浅く3裂) 花(枝先の葉の付け根に付ける 1日花) 果実(卵形 2cm 星状毛密生) 多数の園芸種 大韓民国の国花 薬用・文化
2	アオキ (写真①)	アオキ科	アオキ属	常緑低木 日本原産 日陰に強い植物 若い幹・枝(緑色で光合成を行う) 葉(対生 厚く光沢あり) 花(雌雄異株 4弁) 果実(赤色) 園芸・薬用
3	タネツケバナ	アブラナ科	タネツケバナ属	越年草 湿った場所を好んで群生 草丈10~40cm 葉(互生) 花(小さな白色4弁花) 食用・生薬
4	ミゾイチゴツナギ	イネ科	イチゴツナギ属	1年草または越年草 湿地・低山の木陰に生育 草丈30~70cm 全体が柔らかい 葉(互生 線形 叢生) 花茎(下垂 小穂は緑色)
5	カクレミノ	ウコギ科	カクレミノ属	常緑亜高木 暖地の沿岸部に自生 半日陰~日陰が適地 樹形(上部に枝葉が茂り中間から下部は幹のみ) 葉 (互生 3本の葉脈が目立つ 全縁と3裂が混在する) 花(雌雄同株) 塗料
6	キツタ (写真②)	ウコギ科	キツタ属	常緑つる性木本 在来種 別名フユツタ(冬でも葉があることから) 耐寒性不定根(付着根) 葉(厚く革質 互生 樹齢で異なる) 花(ヤツデに似た黄緑色の5弁花) 果実(黒色) 樹液でかぶれる
7	コシダ	ウラボシ科	コシダ属	常緑性シダ植物 無限成長して大群落を形成 ウラボシ科と生態や生育環境などよく似るが別の属である 2分岐を繰り返して段を重ねて成長する 山火事を招く危険がある
8	ハゼノキ	ウルシ科	ウルシ属	落葉小高木 中国・東南アジア原産 安土桃山時代に渡来 野生化したものが温暖地に自生 葉 (奇数羽状複葉 両面毛無し 真っ赤に紅葉) 花(雌雄異株 5弁花) 果実(葉が落ちた後も枝に残る) 蠟・救荒植物 似る樹種: ヤマハゼ(葉の両面に細かい毛あり)
9	フラサバソウ	オオバコ科	クワガタソウ属	越年草 ヨーロッパ原産 別名ツタバイヌフグリ 明治初期に渡来 草丈10~30cm 群生 花(薄紫色) 全体に白い軟毛あり 和名はフランスの植物学者のフランシェとサバティエの名を合わせたもの
10	シノアザミ	キク科	アザミ属	? アザミの仲間には世界に300種
11	ツワブキ	キク科	ツワブキ属	常緑多年草 暖地の海岸近くに自生 葉(濃緑色 つやあり) 花 (黄色 ややまばらの舌状花と密な管状花 晩秋から冬に咲く) 園芸・薬用・食用野草(若い茎を食べる)
12	テイカカズラ	キョウチクトウ科	テイカカズラ属	つる性常緑低木 温暖地に自生 茎(気根を出し固着する) 葉 (対生) 花(プロペラ状 白から淡黄色に変化 芳香あり) 果実 (20cm袋果で2個が対にぶら下がる) 種子(長い白綿毛有り) 謡曲 「定家」 有毒植物 薬用
13	ヤブニッケイ	クスノキ科	クスノキ属	常緑高木 暖地 別名クロダモ 葉や樹皮にニッケイに似た香りがすることからの名 樹皮 (灰黒色で滑らか) 葉(互対生 3行脈) 花(雌雄異株) 果実(黒紫色) ロウソク
14	シロダモ	クスノキ科	シロダモ属	常緑高木 幹(直立) 樹皮(紫褐色~暗褐色) 葉(互生) 枝先に密に付ける 3行脈が目立つ 裏面粉白色) 花(雌雄異株 10月~11月に咲く) 果実(翌年の秋に赤色に熟すので花と同時に見える)
15	タブノキ	クスノキ科	タブノキ属	常緑高木 照葉樹林の代表的樹種 株立ち 成長のスピード早い 葉 (互生 枝先に集まる 表深緑色 裏灰褐色 3脈は無い 2~3年かけて葉が入れ替わる) 神事との関連が深い 丸木舟・染料・線香
16	シチヘンゲ	クマツヅラ科	シチヘンゲ属	半つる性常緑小低木 中南米原産 江戸時代に渡来 和名ランタナ 茎(四稜 逆毛が密生) 葉(対生 ざらつく) 花(周囲から順に咲き花色を変える) 要注意外来生物・世界の侵略的外来種ワースト100に選定
17	ノグルミ (写真⑦)	クルミ科	ノグルミ属	落葉高木 葉(互生 奇数羽状複葉) 花(雌雄同株) 果実 (小さなマツボックリのようなだがハリネズミのようにトゲトゲである) 枝葉に有毒物質を含む 染料・蚊取り線香の代用
18	イヌビワ	クワ科	イチジク属	落葉低木 海岸や沿岸の山地に自生 味も形状もイチジクに近い 葉(互生 鋸歯無し) 花(雌雄異株 雌株の花囊の中に花が咲く 雄株の赤い実(コバチの巣) イヌビワコバチとの共生)
19	フジウツギ	ゴマノハグサ科	フジウツギ属	落葉低木 花序の様子や色が藤に似ることからの名 茎(4稜) 葉(細長い 対生) 花(密な円錐花序で10~50cm) 有毒植物
20	ホトケノザ	シソ科	オドリコンソウ属	一年草または越年草 別名サンガイグサ(葉が段状につくことから) 茎 (四角形で柔らかい) 葉(対生) 花 (紫色の唇形状 日当たりの良い場所では通年咲かせる) 春の七草の「仏の座」はキク科のコオニタビラコのこと 食用不可
21	タチツボスミレ	スミレ科	スミレ属	多年草 草丈5~20cm 別名ヤブスミレ 陽だまりに群生 茎に付く丸い葉と立ち上がる茎が特徴 花(スミレより丸く薄紫色の花弁に濃紫色の筋)

22	スイバ	タデ科	スイバ属	多年草 草丈60cm 茎や葉を噛むと酸っぱいことかの名 ヨーロッパでは野菜として利用 温帯に生育 葉(冬の間はロゼッタ状に広がり赤紫を帯びる 春緑色になる) 花 (雌雄異株 朱紅色) 食用・薬用
23	コバノミツバツツジ	ツツジ科	ツツジ属	落葉低木 葉が3枚展開するミツバツツジ(関東から中部に分布し雄蕊5 本)と比べて葉が小さいことからの名 紅紫色の花が春を告げる 葉(裏の網目が目立つ) 花(雄蕊10本) 県立三木山公園内2500株のコバノミツバツツジ群落が令和5年三木市指 定天然記念物に指定された(植物群としては三木市初)
24	トベラ	トベラ科	トラベ属	常緑低木 ヒメユズリハ・ウバメガシと共に海岸林の構成樹 葉 (互生 輪生のように枝先に付く 葉の端が内に反り返る) 花 (雌雄異株 白い5弁花) 魔除け 枝や葉を切ると悪臭を放つ
25	ウメ	バラ科	サクラ属	落葉高木 中国中部原産 弥生時代に渡来 日本 では6月6日が「梅の日」 多数の園芸品種あり 葉(互生) 花(5弁花 葉より先に 花柄短い) 実(毛密生) 染色・食用
26	カンヒザクラ	バラ科	サクラ属	亜高木 熱帯に近い温帯に分布 花(1~3月が開花期 濃紫紅色 一重 の釣鐘状で下向きに半開きで咲く ガクの付いた状態で落下する) 沖 縄・奄美の桜の開花予報や宣言の標本木
27	ボケ	バラ科	ボケ属	落葉低木 中国原産 平安時代に渡来 温暖地 株立ち 枝(棘あり) 葉(互生 付け根に托葉) 花(新緑の展開前 五弁花 雌雄 同株) 果実(カリンの様に黄色く熟す) 生薬・ 果実酒・ジャム
28	ハイネズ	ヒノキ科	ビャクシン属	常緑低木針葉樹 海岸に生育 日当たりと風通しの良い乾燥地を好む 大群落を形成 幹(地を這う) 葉(針葉 3輪生して密生 横断面 は逆三角形 先端尖る 白い気孔帯) 花(雌雄異株)
29	フタバガキ (写真⑩)	フタバガキ科	フタバガキ属	半落葉高木 東南アジア原産 柿のような形をした果実(羽突きのよう なガクが2枚付くことからの名 葉(互生 革質 長楕円形) 花(ク リームに淡赤紫色の条線模様が入る筒状花) ラワン材 で乱獲され現在は絶滅危機にある 真っ直ぐに伸びた太く長い幹ともこ もこと繁る樹形でその巨体を支える板根が特徴 「熱帯雨林の王 様」
30	アベマキ	ブナ科	コナラ属	落葉高木 クヌギに似る 樹皮(コルク層が発達) 葉 (針状の鋸歯 裏星状毛が密生 落葉せず枝先に残る) 花(雌 雄同株) ドングリ(2年かかる 丸くて大きい) 薪炭の材料・シイタケの原木
31	アラカシ	ブナ科	コナラ属	常緑高木 温暖地を好む 樹皮(平滑) 葉(互生 中央から先端に粗鋸 歯があるが下部は全縁 裏白味を帯びる) 花(雌雄異株) 果実(ドングリはその年に熟す 殻斗を浅くかぶる) 昆虫 が集まる木
32	ウメバガシ	ブナ科	コナラ属	常緑高木 海岸や岩場に多い 日本 産の常緑のカシ類では特に丸くて小さく硬い葉を持つ 雌雄同株 ドングリ生食可 備長炭の用材
33	クヌギ	ブナ科	コナラ属	落葉高木 樹液にカブトムシなどの昆虫が集まる 葉 (互生 左右が不整形 針状の鋭い鋸歯 クリの葉に似る 枯れても枝 に残る) 雌雄同株 ドングリ(2年かかる コナラ属で最も大 きい 生食不可) ヤママユ ガの幼虫の食樹 薪炭材・シイタケの原木・染料・生薬
34	コナラ	ブナ科	コナラ属	常緑高木 ミズナラ(別名オオナラ)と比べ葉とドングリが小さいこと からの名 雑木林を構成する代表種 樹皮(灰 褐色~暗灰褐色 縦に深い裂け目が入る) 葉(互生 枯 れても葉が落ちない) 果実(ドングリはその年に熟す) 燃料源・染 料・食用
35	サネカズラ	マツブサ科	サネカズラ属	常緑つる性木本 暖地に自生 別名ビナンカズラ 葉 (互生 厚みがありやや光沢あり) 果実(赤い集合果 果実が脱落 して真っ赤なふくらんだ花托が残っていた) 生薬・整髪料
36	トキワマンサク	マンサク科	トキワマンサク属	常緑小高木 花(細いリボンのような4枚の花弁 白色・ピンク色・紅 色・絞りなど) 似た 花:マンサク(マンサク科マンサク属 落葉で黄色の花)
37	トサミズキ (写真⑤⑥)	マンサク科	トサミズキ属	落葉低木 四国高地原産 石灰岩質を好む 株立ち 葉 (互生 葉脈目立ち縁が波打つ ザラザラ感) 花(新 緑の展開前 下垂した総状花序 5弁花 淡黄色 葯は紅色)
38	コブシ (写真⑪)	モクセイ科	モクレン属	落葉高木 葉(互生) 花(新緑の展開前 3枚の萼と6枚の花弁 らせん 状の雄蕊・雌蕊 基部に小型の葉が1枚付く) 薬 用・食用・飲用
39	モチノキ (写真⑨)	モチノキ科	モチノキ属	常緑中高木 樹皮からトリモチが採れることからの名 雌雄 異株で株単位で性転換する 葉(互生 枝先に輪生) 果実 (赤色で大きめ) 天敵はモチノキタネオナガコバチ 庭木・ 防火樹・薬用・染料
40	ヤマモモ (写真⑩)	ヤマモモ科	ヤマモモ属	常緑大高木 山野の暖地を好む 葉(互生 枝先に束生 革質) 花 (雌雄異株) 果実(暗紫色) 食用・染料・生薬

41	ヒメユズリハ (写真④)	ユズリハ科	ユズリハ属	常緑高木 トラベ・ウバメガシと共に海岸林の構成樹 ユズリハより全体的に小さい に束生 大きき12X5cm 裏黄緑色) 花(雌雄異株) 物	ユズ 葉(枝先 有毒植 物
42	ユズリハ	ユズリハ科	ユズリハ属	常緑高木 暖地の山地や広葉樹林内に自生 (互生 20X7cm 葉柄赤味を帯びる 裏白みを帯びる) 雄異株) 有毒植物 防火樹 薬用	葉 花(雌

黒地は先生の説明です

絞め殺しの木

高い木の上で発芽して気根を出し何mも伸びて地面に達して一気に成長する。気根は元の木を覆いつくして枯らし、木が朽ち果てると網状の根と空洞が残る。絞め殺しの木は上から下へと成長していく。

クワ科イチジク属：カジュマロ・アコウ・インドゴム・ベンガルボタイジュなど

トサミズキ属

トサミズキ(花穂が長い)・ヒュガミズキ(花穂が短い)・コウヤミズキ・キリシマミズキの4種が日本に自生する

ムクゲとフヨウの違い

フヨウ：花の大きさ (10cm前後 花柱が曲がっている) 葉の形 (大きく手の掌の様な形 明緑色) 樹形 (よく枝分かれして大きく横にも広がる)

ムクゲ：花の大きさ (5~7cm 花柱が真っ直ぐ) 葉の形 (小さめで鋸歯で切れ込む 深緑色) 樹形 (真っ直ぐに上に伸びる)

フキとツワブキの違い

フキ : 葉(厚みや光沢無し 表面がザラザラ 落葉)

ツワブキ: 葉(厚みと光沢あり 表面ツルツとしている 常緑)

マツブサ科

特徴 ①直立またはつる性木本 ②精油を多く含む シキミ属・サネカズラ属・マツブサ属がある

2024/3/1 ニジゲンノモリ



①アオキ



②キヅタ



③ツバキ



④ヒメユズリハ



⑤トサミズキ



⑥トサミズキ



⑦ノグルミ



⑧クチナシの実



⑨モチノキ



⑩ヤマモモ

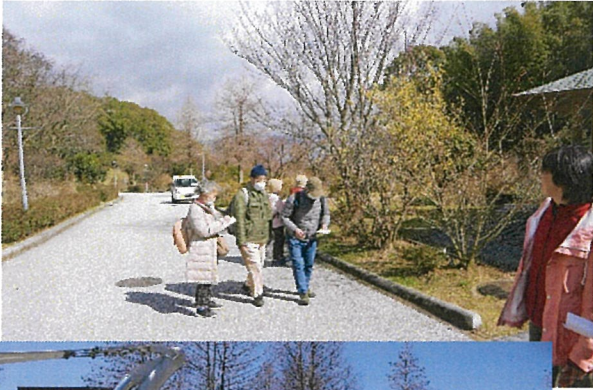


⑪コブシ



⑫板根







2024.03.01

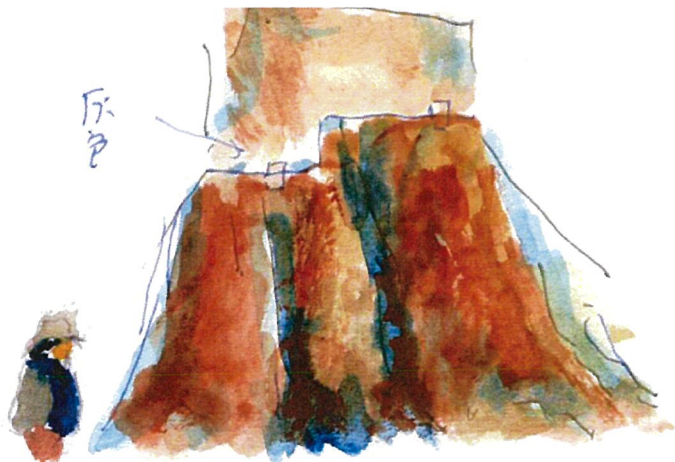
淡路 ニジゲソノモリ

(w) ウィキペディア

(庭) 庭木ウィキペディア

◎フタバガキ (板根)

(W) 双子葉植物の科。東南アジアを中心に分布する高木で熱帯雨林を代表する一群。高は20 m 未満の種もあるが、多くは40 m から場合によっては **60 m に達する**。



◎ヒチヘンゲ

(W) **ランタナ**、和名はシチヘンゲ (七変化)。学問上はランタナと言った場合、ランタナ属全体を指す。日本の園芸上は単にランタナと言った場合、コバノランタナを除くランタナ属の園芸種全体を指すことが多い。



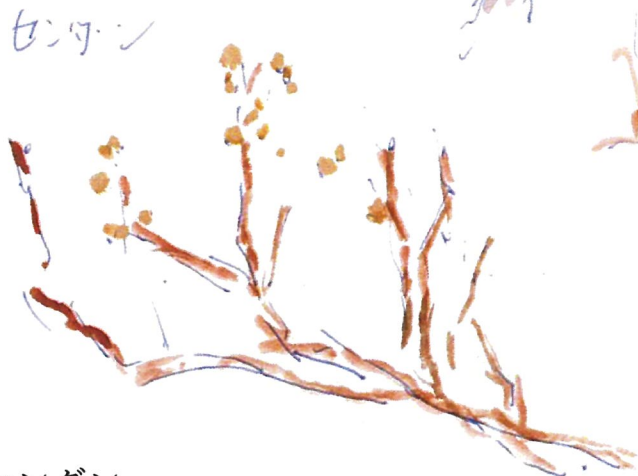
◎梅

花が赤と白混在 **キメラ化**



◎トサミズキ

(庭) 主に土佐 (高知県) の山地に自生するマンサク科の落葉樹。早春に咲く黄色い花



◎センダン

(W) 晩秋 (10 - 12 月頃) に黄褐色に熟す。秋が深まり落葉しても、しばらくは梢に果実がぶら下がって残るため目立つ

◎アメリカフウ

(W) 中国原産のフウのなかまで、葉がモミジのように5裂から7裂するのが特徴



ヤマモモ
木

◎ヤマモモ

(W) 雌雄異株 雄花



◎コブシ

(W) モクレン属に属する落葉高木の1種。早春に、葉が展開する前に他の木々に先駆けて白い大きな花をつける。



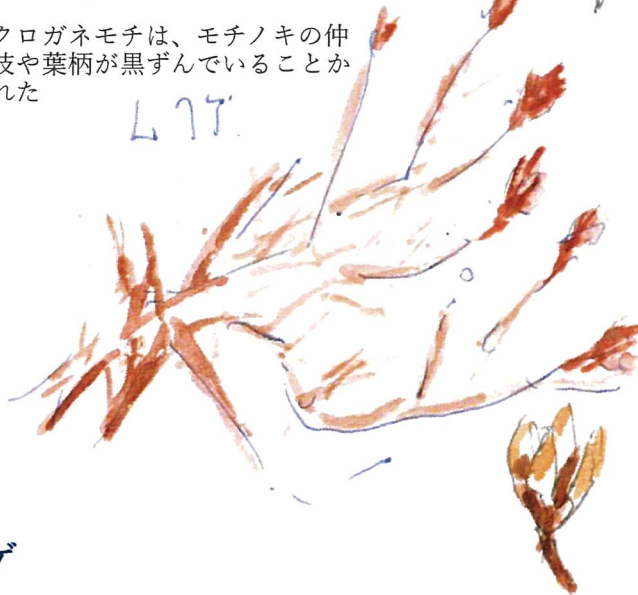
◎タブノキ

冬芽は枝の先につき、黄褐色の毛のある芽鱗に包まれ、卵形で大きく丸くふくらむ。大きな冬芽の中に花と葉が入った混芽で、芽鱗は多数重なる葉が3枚展開する



◎クロガネモチ

(W) 和名クロガネモチは、モチノキの仲間で、若い枝や葉柄が黒ずんでいることから名づけられた



◎コバノミツバツツジ

(w) 広田神社(兵庫県西宮市大社町、天然記念物) - 20,000㎡に十数群落



◎ムクゲ

(W) 中国が原産、中近東でも、カイロなどの主要都市で庭木や公園の樹木として植えられているのを良く見かける。日本へは古く渡来し、平安時代初期にはすでに植えられていたと考えられる。暖地では野生化している。

大韓民国では、法的な位置づけがあるわけではないが国花とされている。↗

↙果実は長さ1.5~2cmの卵形で、黄褐色の星状毛が密生する。10月頃熟すと5裂する。種子は長さ4~5mmの腎臓形で長毛がある。花期は8~9月。冬芽は裸芽で、こぶ状に盛り上がり、星状毛が密生する。

◎ヒメユズリハ

(W) クスノキ科クスノキ属の常緑高木。
海岸付近に多く、トベラやウバメガシと共に
海岸林の重要な構成樹種である。

ヒメユズリハ

ナリ



◎カクレミノ

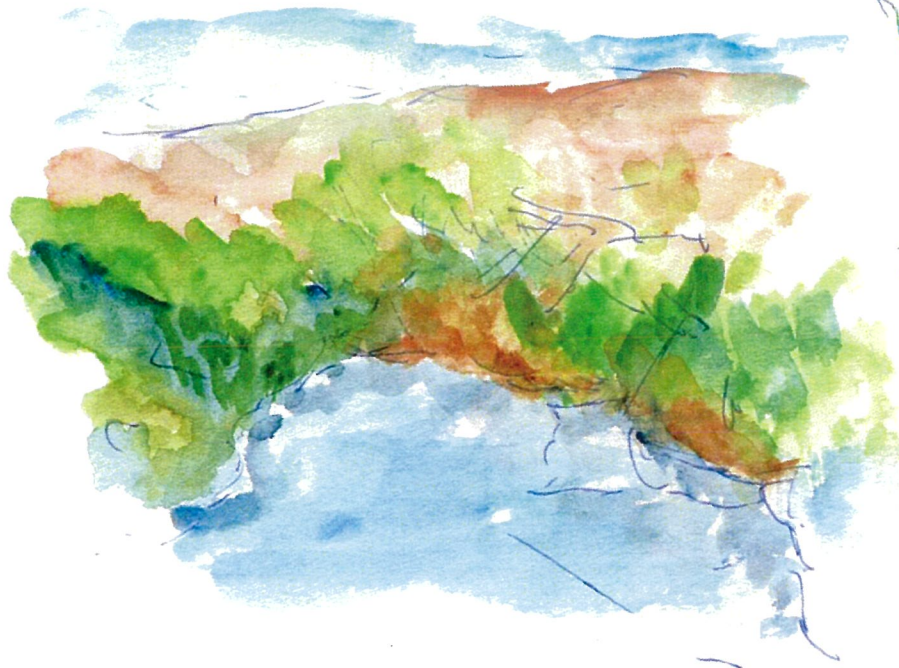
(W) 生長とともに全縁と2-3裂の浅裂の葉
が1株の中に混在するようになる。



カクレミノ → ウバメガシの葉の
ナリ

◎昭和池

ふれあい橋より



◎アラカシ

(W) ドングリのなる木
で、その年の秋に熟す



◎ゴジラ

ネコゼのゴジラ

国立ゴジラ研究所



◎ツバキ

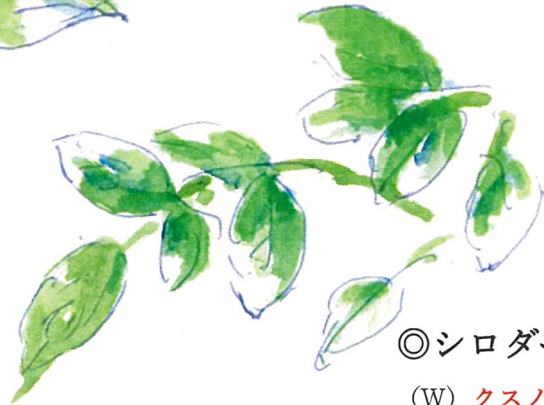
(W) 植物学上の種 (標準和名) であるヤブツバキ (学名: *Camellia japonica*) の別名として、一般的にツバキと呼んでおり、またヤマツバキ (山椿) の別名でも呼ばれる



エノキ

◎エノキ

(W) 縁起の良い木を意味する「嘉樹 (ヨノキ)」が転じてエノキとなった。他諸説あり



◎ヤブニッケイ

(W) 似たような環境に生育するもので、よく似たものにシロダモがある。ヤブニッケイの別名にクロダモがあり、それと対比させたものと思われる



◎シロダモ

(W) クスノキ科シロダモ属の常緑高木。果期は翌年の秋 (10-11月ごろ)、果実が赤色に熟すので、**花と同時に鑑賞できる**



クスノキ科シロダモ属の常緑高木



◎モチノキ

(W) モチノキ (餅の木・糰の木・細葉冬青、学名: *Ilex integra*) とは、モチノキ科モチノキ属の植物の一種。別名ホンモチ、単にモチともよばれる。和名は樹皮から鳥糞 (トリモチ) が採れることに由来する

◎アオキ

(W) アオキ属の常緑低木。青々とした葉と赤い果実が特徴で、山地の林内に自生するほか、庭木にも使われる

ミドリメ

◎野ぐるみ

(W) 葉や樹形がオニグルミなどのクルミに似ていることから。→



←果実は革質の硬い鱗片で覆われ、形状は長楕円形でハリネズミに似ている。これは、トゲトゲして触ると痛いし、食用は不可



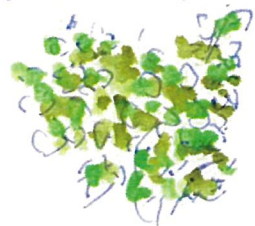
◎キズタ

(W) ブドウ科の落葉性のツタに比べて、木質が強いことから名付けられている。別名では「フユツタ」ともよばれ、常緑性で冬でも葉があることに由来する

◎フラサバソウ

(W) 日本には外来種として定着している。別名を「ツタバイヌノフグリ」

フリスバソウ



フリスバソウ

◎スイバ

(W) ヨーロッパではソレルともよばれる野菜。食べると酸っぱい味がする。日本地方名でスカンボともよばれるが、同別名をもつイタドリとは別の植物である。



◎タネツケバナ

(W) 苗代作りの準備をすることで白い花を咲かせることから「種漬け花」と名付けられたといわれる



トベラ



◎トベラ

(W) 枝葉は切ると悪臭を発するため、節分にイワシの頭などとともに鬼を払う魔よけとして戸口に掲げられた風習があったことから「扉の木」とよばれ、これが転訛してトベラとなった

イヌビワ



◎イヌビワ

(W) ビワに比べ不味であることから「イヌビワ」。「イヌ」は劣るという意味。ビワ(バラ科)の仲間ではなくイチジクの仲間、ビワとは近縁関係なし。



◎カンヒサクラ
寒緋桜

(W) バラ科サクラ属の野生種のサクラ。旧暦の正月あたりに咲くことからガンジツザクラ(元日桜)と呼ばれることもある。なお語呂が似たヒガンザクラ(彼岸桜)はエドヒガンとコヒガンの通称であり、別種である。